

## 資料4

国立大学法人評価委員会  
総会(第53回)H28.1.27

### 中期目標原案の変更箇所一覧

＜①「各法人が自らの強み、特色を明示し、法人としての役割をそれぞれ果たしつつ、法人として特に重視する取組について明確な目標を定めること」に関連して更なる検討が求められた事項＞

(国立大学法人)

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
1 宇都宮大学	(中期目標)Ⅱ-2① 学長のリーダーシップの下で、第2期で取り組んできた業務及び組織見直しの実績を踏まえ、柔軟かつ機動的な組織改革を行う。	(中期目標)Ⅱ-2① 学長のリーダーシップの下で、第2期で取り組んできた業務及び組織見直しの実績を踏まえ、社会のニーズに的確に応じた組織改革を行う。	組織改革の方向性をより明確に示した。
2 東京農工大学	(中期目標) 6・日本の産業界を国際社会へ牽引するため、大学を拠点とした最先端の研究成果の実用化に関連するイノベーション創出に向けて、その基盤となる産学官連携活動を推進・発展させる。	(中期目標) 6・日本の産業界を国際社会へ牽引するため、オープンイノベーションを指向した産学官連携活動を推進・発展させる。	ミッションの再定義において「これまでの受託研究・共同研究の受入等における高い実績を生かし、我が国の産業を支える実践的な研究等の取組を一層推進」と定義されており、更なる産学官連携活動を推進するためには、オープンイノベーションを指向することが必要であるため、中期目標に追記した。
3 山梨大学	(中期目標)9. 本学の強みを有する分野や地方創生に貢献する分野の融合研究に重点的に取り組み、その成果について地域を起点に世界に発信していく。その過程を通じて高度かつグローバルな視野を持つ研究人材を育成する。	(中期目標)9. 本学の強みを有する分野や地方創生に貢献する分野の融合研究や特色ある研究に重点的に取り組み、その成果について地域を起点に世界に発信していく。その過程を通じて、大村智特別栄誉博士(2015年ノーベル医学・生理学賞受賞、本学学芸学部卒)に続く高度かつグローバルな視野を持つ研究人材を育成する。	(素案提出後に決定された)大村博士のノーベル賞受賞を踏まえ、本学の伝統や特色ある取組をより明確にするため、目標に追記する。

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
4 一橋大学	<p>(前文)</p> <p>一橋大学は、世界及び日本の社会、経済、法制等における諸課題の解決と制度改革に資する研究や、企業経営の革新に結実する研究など、実学としての学問の研究に強みを発揮し、社会の改善に貢献してきた。また、特色ある少人数ゼミナールを中心として、高い水準の研究と一体となった良質な教育により、一人ひとりの学生を丁寧に育成し、産業界をはじめ各界において国際的に活躍する人材を社会に送り出してきた。グローバル化の進む世界においても、社会改善への貢献と高度な人材の育成という使命を達成するため、一橋大学の特色と強みを生かした機能強化に取り組み、研究と教育の更なる高度化と国際化を推進して、社会科学における世界最高水準の教育研究拠点を目指す。</p>	<p>一橋大学は、「日本及び世界の自由で平和な政治経済社会の構築に資する知的、文化的資産を創造し、その指導的担い手を育成すること」を使命とし、わが国における社会科学の教育研究をリードしてきた。とりわけ、世界及び日本の社会、経済、法制等における諸課題の解決と制度改革に資する研究や、企業経営の革新に結実する研究など、実学としての学問の研究に強みをもち、社会の改善に貢献するとともに、<u>実学の基盤である基礎・応用研究も重視してきた。</u> <u>それと同時に、特色ある少人数ゼミナールを中心として、高い水準の研究と一体となった良質な教育により、一人ひとりの学生を丁寧に育成し、産業界をはじめ各界において国際的に活躍する人材を社会に送り出してきた。</u>グローバル化の進む社会においても、社会改善への貢献と高度な人材の育成という基本的使命を達成するため、以下の重点事項を中心に、一橋大学の特色と強みを生かした教育研究の更なる高度化と国際化を推進し、社会科学における世界最高水準の教育研究拠点を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際的研究ネットワークを更に拡充し、国際共同研究を促進するとともに、社会的に重要な課題に学際的に取り組む研究を推進し、<u>真の実学の拠点としての機能を一層強化する。</u></li> <li>2. グローバル社会に貢献し得る質の高い人材、すなわち、広い視野から課題を発見し、深い専門知識に基づいて論理的に考え、的確に判断し、課題解決への道筋を見出す力、自らの考えを他者にも分かりやすく伝える力、そして、世界の多様な国や地域の人々とも相互に理解し、尊重し、協働する柔軟性をもつ人材を育成する。</li> <li>3. グローバル化された社会で求められる一層高度な専門的知識と的確な判断力を有するプロフェッショナルを育成するため、ビジネス、法、政策等の分野における高度専門職養成の機能を更に強化充実する。</li> </ol>	<p>前述の「中期目標原案・中期計画案の状況」を補足すべく、前文に追記した。</p>
5 福井大学	<p>(中期目標)</p> <p>1 教育に関する目標</p> <p>(1)教育内容及び教育の成果等に関する目標</p> <p>① グローバル化社会における地域創生を担う人材の中核的育成拠点として、国際通用性を有する教育課程のもと、ミッションの再定義で掲げた各分野の人材を含め、優れた高度専門職業人を育成する。</p>	<p>① 地域に根ざす国立大学として、グローバル化社会における地域創生を担う人材の中核的育成拠点となり、高い国際通用性を有する教育課程のもと、<u>地域一体型教育を推進し、ミッションの再定義で掲げた各分野の人材を含め、優れた高度専門職業人を育成する。</u></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本学は「自らの強み、特色」として、国立大学の機能強化に係る重点支援①の枠組み内で機能強化を図ることとしており、この点をより明確化するため「地域に根ざす国立大学として」を加筆した。</li> <li>2. 機能強化の方向性に応じた重点支援①として、「教育の国際通用性向上と地域一体型教育の推進によるグローバル人材育成地方型イニシアティブ事業」を進めることとしており、当該事業は本学が特に重視する取組の一つであり、これをより明確化するため「高い国際通用性を有する教育課程のもと、地域一体型教育を推進し」として修正・加筆した。</li> </ol>

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
6	福井大学 (中期目標) 1 教育に関する目標 (2)教育の実施体制等に関する目標  ① 地域活性化の中核となる人材育成およびグローバル高度専門職業人育成の拠点として質の高い教育を実現するための教育実施体制を整備し運用する。	① グローバル高度専門職業人および地域活性化の中核となる人材の育成拠点として、教育の国際通用性の確保・向上や地域一体型教育の先導的推進に係る取組みなど、質の高い教育を実現するための教育実施体制を整備し運用する。	機構強化の方向性に応じた重点支援①として、「教育の国際通用性向上と地域一体型教育の推進によるグローバル人材育成地方型イニシアティブ事業」を進めることとしている。当該事業は本学が特に重視する取組の一つであり、これをより明確化するため「教育の国際通用性の確保・向上や地域一体型教育の先導的推進に係る取組みなど」を加筆するとともに、該当する部分を修正した。
7	福井大学 (中期目標) 1 教育に関する目標 (3)学生への支援に関する目標  ① ステークホルダーからの満足度の高い修学支援、生活支援、就職支援等を行う。	① 学生と教職員の良好な関係のもと、ステークホルダーの満足度が高い修学支援、生活支援、留学支援等とともに、高い実績を持つ就職支援を推進する。	1. 素案提出後の大学機関別認証評価(平成27年度実施)において、「本学は大学コミュニティとして重要な、学生と教職員の良好な関係が構築されている」ことが高く評価された。これは本学の強み・特色であり、このことを明確化するため「学生と教職員の良好な関係のもと」を加筆した。 2. 機能強化の方向性に応じた重点支援①として挙げた「教育の国際通用性向上と地域一体型教育の推進によるグローバル人材育成地方型イニシアティブ事業」に係るグローバル人材育成に必須な「留学支援」を加筆した。 3. 複数学部を有する国立大学において8年連続就職率第一位と高い実績を有し、高く評価されている本学の就職支援は本学の強み・特色であり、このことをより明確化するため「高い実績を持つ就職支援を推進する」として修正・加筆した。
8	福井大学 (中期目標) 1 教育に関する目標 (4)入学者選抜に関する目標  ① 知識・能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する選抜方法により、多様な志願者や社会ニーズ等に適切に対応するとともに、多様な学生の受入れを進める。	① 多様な志願者や社会ニーズ等に適切に対応するとともに、新たな高大接続入試の創出に繋がる高大連携等を推進し、知識・能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する選抜方法により、多様な学生の受入れを進める。	予算化された「大学間共同の高大連携と評価手法の開発研究による高大接続入試への提案」事業(平成28年度機能強化促進分)として推進することとしており、本学が重視する取組として、このことを明確化するため「新たな高大接続入試の創出に繋がる高大連携等を推進し」を加筆した。
9	名古屋工業大学 (中期目標) 2 教育研究組織の見直しに関する目標 (新規)	(中期目標) 2 教育研究組織の見直しに関する目標  ②グローバル化に対応する新たなイノベーション・リーダーの育成を図るため、教員組織の見直しを行う。	新たに設置する教育組織(領域)に、既存の領域から人的資源を再配分するとともに、外国人研究者や企業在籍者を加えることにより、国際的な教育研究拠点とするため。

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
10	滋賀医科大学 (中期目標) I 1(1)【学士課程】 ①医学及び看護学の専門的知識と高い臨床技能を授けるとともに豊かな教養、確固たる倫理観を育み、旺盛な探求心とグローバルな視点を備え、幅広い知識・技量・経験を地域医療に生かすことができる人材を育成する。	①医学及び看護学の専門的知識と高い臨床技能を授けるとともに、豊かな教養、確固たる倫理観を育み、旺盛な探求心とグローバルな視点を備え、幅広い知識・技量・経験を医療に生かし、地域に貢献することができる人材を育成する。	明確な記述に変更
11	香川大学 (中期目標) (I.2(1)1(9)) 希少糖、防災・危機管理、遠隔医療ネットワーク等の特色ある研究を推進し、世界的・全国的に展開することにより、当該研究成果を社会に提供し、全学の研究成果(SCI論文)の60%程度及び学外との研究連携の60%程度を担う。	希少糖、防災・危機管理、遠隔医療ネットワーク等の特色ある研究を推進し、世界的・全国的に展開することにより、当該研究成果を社会に提供し、全学の研究成果(SCI論文)の60%程度及び学外との研究連携の60%程度を担う。	より正確に研究成果を把握できるものとするため。
12	香川大学 (中期目標) (I.4(1)1(14)) 地域において国際的に活動できる人材を育成するため、教育の国際化を推進する。	グローバルな視点を持ちつつ地域において活動できる人材を育成するため、教育の国際化を推進する。	地域に貢献する人材として、特にグローバルな視点を育成する意図を明確にするため。
13	熊本大学 (中期目標:前文) また、県内唯一の国立大学として、阿蘇、有明・不知火海等、地域の自然や風土が育んだ研究素材・研究環境を生かした“熊本ならではの”特色ある研究拠点形成を育成し、「低炭素・資源循環・環境共生」型社会の構築を目指す。	(中期目標:前文) また、県内唯一の国立大学として、阿蘇、有明・不知火海等、地域の自然や風土が育んだ研究素材・研究環境を生かした“熊本ならではの”特色ある研究拠点形成を育成し、「低炭素・資源循環・環境共生」型社会の構築を目指し、地域社会へ還元する。	(理由) 本学は、“国際的な研究拠点を志向する地域起点型大学”を目指しており、研究にとどまらず、地域社会へも還元することを明確にするために修正。
14	熊本大学 (中期目標:前文) その一環として、新規に設置した「くまもと地方産業創生センター」を通して地域産業の振興と優れた産業人材の養成を行うとともに、高大連携事業の充実を通して県内の高等教育の充実に貢献する。	(中期目標:前文) 「地(知)の拠点大学による地方創生」(COC+)では、地域産業の振興と優れた産業人材の養成を図るため、新規に設置した「くまもと地方産業創生センター」を活用し、活動を推進する。	(理由) 「地(知)の拠点大学による地方創生」(COC+)事業に採択されたことを受け、本学の特色ある取組に加え、明確にするために修正。
15	熊本大学 (中期目標:なし) なし	(中期目標:目標9) ③大学の枠を超えた国際的な中核的拠点としての役割を果たすため、熊本大学の特色・強みのある研究分野の機能強化、整備を行う。	(理由) 本学の特色ある取組の一つであるパルスパワー科学に関する研究分野を中期目標に加え、強み・特色を明確にするため追加。

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
16 熊本大学	(中期目標:目標9) 1)地域創生の拠点として、地域社会と連携し、活力ある地域社会を共に創る火の国人材育成を推進する。 また、社会連携、社会貢献活動を積極的に展開し、さらに雇用促進のため地域を活性化する取組を推進する。	(中期目標:目標10) 1)地(知)の拠点として、地域社会と連携し、地方創生に取り組む人材の育成を推進する。 また、社会連携、社会貢献活動を積極的に展開し、さらに雇用促進のため地域を活性化する取組を推進する。	(理由) 「地(知)の拠点」(COC)と「地(知)の拠点大学による地方創生」(COC+)事業に採択されたことを受け、本学の特色ある取組として、明確にするために修正。
17 琉球大学	中期目標4. 大学及び学士課程・大学院課程・専門職学位課程の理念・目的に沿った入学者選抜方法を確立する。	中期目標4. 学長のリーダーシップのもと、大学卒業後のキャリア形成を視野に入れた高大接続システム改革の実現に資する、多面的・総合的な入学者選抜方法に転換する。	大学として、高大接続システム改革を重視する必要があること、また、その実現に向けた中期目標であることを明確に表現するため。

(大学共同利用機関法人)

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
1 情報・システム研究機構	(中期目標)なし	(中期目標)【19】 危機管理に対する体制の強化を図り、安全な業務運営を行う。	【検討状況】 更なる検討を求められた項目⑤に対応するため、所長会議及び中期目標・中期計画タスクフォースのメンバーにより、戦略企画本部の記述の具体化について検討を行った。 【結果・反映状況】 ・検討を求められたことを受けて、危機管理対応を機構長がどのように実施していくかについて、更なる検討を行った結果、以下の方針を決定し、中期目標【19】を追加した。 ○安全な業務運営を行うため、危機管理に対する体制の強化を図ることとした。

**＜②「目標を具体的に実現するための手段を策定し、その手段が遂行されているかどうかを検証することができる指標を設定すること」に関連して更なる検討が求められた事項＞**

(国立大学法人)

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
1	旭川医科大学 (中期目標) 《4》教育の質を大学として明確に保証できるようにするため、エビデンスに基づいた教学マネジメント体制を整備する。	《4》教育の質を大学として明確に保証できるようにするため、エビデンス(客観的根拠)に基づいた教学マネジメント体制を整備する。	文言を分かり易くするため和訳を追記した。
2	秋田大学 中期目標【11】「地(知)の拠点整備事業」(大学COC(Center of Community)事業)を行う大学として、学生の地域に関する知識・理解を深めるとともに、地域の課題解決を目指して、地域との協働による地域振興策の取組を推進する。	地(知)の拠点大学として、学生の地域に関する知識・理解を深めるとともに、地域の課題解決を目指して、地域との協働による地域振興策の取組や地域を担う人材養成を推進する。	平成27年度に採択された「地(知)の拠点大学による地方創生事業(COC+事業)」の事業計画に記載した取組を確実に実行していくことを明示するため。
3	東京医科歯科大学 (中期目標)15)国内外の企業や研究機関等との連携を強化し、医療イノベーション創出、実用化に向けた最先端研究拠点の形成を推進するとともに、社会的課題の解決に向けて、本学が保有する知識、技術、研究成果等の「知」を広く社会に発信し還元する。	○産学連携及び成果の社会への還元 15)国内外の企業や研究機関等との連携を強化し、医療イノベーション創出、実用化に向けた最先端研究拠点の形成を推進し、特許申請や共同研究等をさらに活性化させるとともに、社会的課題の解決に向けて、本学が保有する知識、技術、研究成果等の「知」を広く社会に発信し還元する。	<b>【中期目標原案との関係性】</b> 本学では、平成28年度概算要求において、ビジョンとして「知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献する」を基本理念として、この理念を実現するために、国立大学で唯一の医療系総合大学の特色を活かして、医歯工連携の教育研究を推進し、特に、健康長寿社会実現のための世界的拠点形成と医学・歯学のグローバル人材を育成することで、我が国のみならず世界の人々の健康と社会の福祉に貢献する。」と掲げており、当該ビジョンの評価指標として、様式2-1に記載した第3期中期目標25)と同様に本学の世界大学ランキングを医学分野ランキングでトップ100まで向上させることを設定している。さらに、本学のこうしたビジョンを達成するために、左記に追加した指標を含めて戦略指標を複数設定している。  <b>【変更理由】</b> 学内において、検討した結果、平成28年度概算要求における戦略指標を第3期中期目標中期計画に追加することにより、本学の目標達成に向けた戦略を統合するとともに、明確に社会に発信するため変更を行うこととした。

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
4	東京海洋大学 (中期目標) I-1-(2)-② 教育目的に的確に対応するためにICT等を活用した教育支援を強化するとともに、教育資源を大学の枠を超えて有効活用し、質の高い教育を行えるように施設・設備等の充実を図る。	I-1-(2)-② 教育目的に的確に対応するためにICT(情報通信技術)等を活用した教育支援を強化するとともに、教育資源を大学の枠を超えて有効活用し、質の高い教育を行えるように施設・設備等の充実を図る。	・学内や大学関係者以外の者が読むとわからない表現であると判断したため説明を追記した。
5	一橋大学 (中期目標 I 1(3)①) 本学の強みであるグローバル企業や東証上場の企業、政府関係機関など就職に関する実績を更に向上させる。	グローバル企業や東証上場の企業、政府関係機関などへの就職に関する支援を充実させる。	・「本学の強みである」について、本項目だけに記載する必要はないため削除 ・字句修正 ・学生の就職実績に限定せず、大学全体の就職支援の取組の質を高めるための目標となるよう修正
6	富山大学 (中期目標)【38】 ・業務の内容等を見直し、一般管理費の削減に努める。	(中期目標)【38】 ・業務の内容等を見直し、一般管理費等の削減に努める。	経費抑制の観点から、一般管理費に限定しないこととしたため。
7	富山大学 (中期目標)【39】 ・大学が保有する資産の活用状況を定期的に調査し、有効活用を図る。また、余裕資金が生じた場合は、 <u>資金運用要項に基づき</u> 有効活用を図る。	(中期目標)【39】 ・保有する資産の活用状況を定期的に点検し、有効活用を図る。また、余裕資金が生じた場合は、 <u>資金運用を行い</u> 、有効活用を図る。	中期目標期間中における、資産の活用状況を定期的に点検し、資産の有効活用を図ることを目標としたため、字句を修正した。 また、併せて、余裕資金の運用についても字句を修正した。
8	静岡大学 (中期目標) I-4-(2)目標番号16 大学・教育学部及び地域の教育界・産業界等との連携・協力を強化し、先導的・実験的な教育研究に取り組むことを通して、より資質の高い教員の養成に貢献するとともに、地域のニーズに基づく人材養成に取り組み、地域の教育のモデル校としての役割を果たす。	附属学校園と大学・教育学部及び地域の教育界・産業界等との連携・協力を強化し、先導的・実験的な教育研究に取り組むことを通して、より資質の高い教員の養成に貢献するとともに、地域のニーズに基づく人材養成に取り組み、地域の教育のモデル校としての役割を果たす。	連携の明確化

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
9 奈良女子大学	(中期目標【5-1-1】) 学長のリーダーシップを強化し、理事のみで構成される業務統括会議や、それに各部局長を加えた企画推進会議における熟議を踏まえることで、学部・学科等の壁を越えた戦略的な組織運営を行う。また、組織運営の改善には経営協議会委員や監事等の外部者の意見を積極的に取り入れる。	学長のリーダーシップを強化し、学内資源の全体的な判断に基づく合理的な配分を実現するために、学部・学科等の壁を越えた戦略的な組織運営を行う。また、 <u>大学運営上重要な分野に関しては理事でない副学長をおき運営体制を強化する。あわせて組織運営の改善には経営協議会の学外委員や監事等の意見を積極的に取り入れ、透明性のある開かれた大学運営を行う。</u>	・中期目標をより明確に設定し、充実させた。
10 奈良女子大学	(中期目標【5-1-2】) 教育研究活動を活性化するために、多様な人事制度を取り入れ、柔軟に運用することにより、教員の流動性を高める。	(中期目標【5-1-2】) <u>機能的な組織運営を行うために、教育研究をはじめ大学の機能を支える人材を確保し、その能力を十分に発揮させることができる人事制度を取り入れ、柔軟に運用する。</u>	・中期目標【5-1-2】を【5-1-1】と関連付けてより明確に設定し、充実させた。
11 島根大学	(中期目標) I 1 (2) 3-1 隠岐臨海実験所において、国境離島・日本海諸島という地理的特性と、北方系・南方系生物群の混在という生物学的特性を活かしたフィールド教育を推進し、公募型の実習プログラムを全国の学生に提供する。	(中期目標) I 1 (2) 3-1 隠岐臨海実験所において、国境離島・日本海諸島という地理的特性と、北方系・南方系生物群の混在という生物学的特性を活かしたフィールド教育を、 <u>大学間連携を基盤に推進する。そのため単位互換制度を拡充し、公募型の実習プログラムを毎年継続して5つ以上提供する。</u>	中期目標に記載した「大学間連携」の具体的内容を中期計画に盛り込むとともに、数値目標を明記し、事後的に検証が可能な内容とした。
12 広島大学	(中期目標【前文】)  (略) 大学運営については、教育、研究、社会貢献の機能を最大限に発揮できるように、ガバナンス体制を恒常的に見直しつつ、学長のリーダーシップの下で経営基盤を強化し、 <u>A-KPI(目標達成型重要業績指標)等やIR(インスティテューショナル・リサーチ:大学における諸活動に関する情報の収集・分析)機能を活用した分析を基に本学の強みや特色を活かす戦略的なマネジメントを行う。</u>	(中期目標【前文】)  (略) 大学運営については、教育、研究、社会貢献の機能を最大限に発揮できるように、ガバナンス体制を恒常的に見直しつつ、学長のリーダーシップの下で経営基盤を強化し、 <u>本学の教育や研究面でのパフォーマンスをモニターする独自の目標達成型重要業績指標(A-KPI)等やIR(インスティテューショナル・リサーチ:大学における諸活動に関する情報の収集・分析)機能を活用した分析を基に本学の強みや特色を活かす戦略的なマネジメントを行う。</u>	より分かりやすい表現に修正
13 香川大学	(中期目標)(V2.1(33)) 災害への対応準備や事故の予防等を含め、 <u>安全衛生管理の充実・強化を図る。</u>	災害への対応準備や事故の予防等を含め、 <u>危機管理体制等の充実・強化を図る。</u>	第3期中の取組内容を明確にするため。



	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
14 宮崎大学	(中期目標)なし	高等教育機関及び初等中等教育機関との連携などにより、地域の青少年教育の充実に貢献する。	素案では、「地域の青少年教育充実に貢献する」計画を「産学官共同・連携研究を推進し、大学での研究成果を地域社会に還元する。」目標に含めていたが、「地域の青少年教育充実に貢献する」目標をより明確に示すため、新たに中期目標を作成した。

(大学共同利用機関法人)

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
1 情報・システム研究機構	(中期目標)【3】 研究者コミュニティの要請に応じた共同利用・共同研究の実施によって、学術研究基盤を大学等の研究者へ提供し、我が国の研究水準の維持・向上に貢献する。また、 <u>データ駆動型</u> の学術研究のための支援事業の推進及び学術情報基盤の提供により、我が国の学術コミュニティ全体の教育・研究力の強化・高度化を支えるとともに、産業界等も交えた共同利用・共同研究によって先端技術やサービスを社会へも波及させ、データサイエンス・オープンサイエンスの発展に貢献する。	(中期目標)【3】 研究者コミュニティの要請に応じた共同利用・共同研究の実施によって、学術研究基盤を大学等の研究者へ提供し、我が国の研究水準の維持・向上に貢献する。また、 <u>データを積極的に共有し活用することによって科学の発展や社会のイノベーションを推進するデータ駆動型の学術研究のための支援事業の推進及び学術情報基盤の提供により、我が国の学術コミュニティ全体の教育・研究力の強化・高度化を支えるとともに、産業界等も交えた共同利用・共同研究によって先端技術やサービスを社会へも波及させ、データサイエンス・オープンサイエンスの発展に貢献する。</u>	別添2「事後的に検証できるとは言い難い中期計画記載例」において「説明等が必要な文言」として「データ駆動型」が挙げられていたため、説明を記載した。

＜③「国立大学法人等の中期目標及び中期計画素案に対する所要の措置について」が求める内容に基づかない変更箇所＞

(国立大学法人)

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
1	北海道教育大学 (中期目標) 前文 (略)このことにより、本学は、教員養成の拠点大学として、教員はもとより、グローバルな視点をもって地域を活性化 する人材、芸術やスポーツ文化を通じて人々に豊かな生活を 提案できる人材を養成する、(略)	前文 (略)このことにより、本学は、教員養成の拠点大学として教員を養成することはもとより、グローバルな視点をもって 地域を活性化する人材、芸術やスポーツ文化を通じて人々に 豊かな生活を提案できる人材を養成する、(略)	記載内容を分かり易くするため、文言整理をした。
2	北海道教育大学 (中期目標) 前文 (略) 1 新たな高大接続を見据えた入学試験改革、学校における “新たな学び”に対応するための、アクティブ・ラーニングやICT 教育などを取り入れた大胆なカリキュラム改革、生涯を見据 えた就職支援の充実などの改革に取り組む。	前文 (略) 1 新たな高大接続を見据えた入学試験改革、学校における “新たな学び”に対応するための、アクティブ・ラーニングやICT 教育等を取り入れた大胆なカリキュラム改革、生涯を見据 えた就職支援の充実等の改革に取り組む。	全体の表記と合わせた。 なお、当該修正(「など」→「等」)は以下の整理番号を付 した中期目標でも行った。 番号:6、11
3	北海道教育大学 (中期目標) ○ 北海道における教員養成の拠点大学として、また、地域 の活性化を担う人材養成機関として、第2期に策定した「北海 道教育大学教員養成改革の基本方針」に基づき、ステークホ ルダーの声を取り入れた教育課程改革を継続的に進め、併 せて教育方法と成績評価の改善・開発を推進する。	(中期目標) 1 北海道における教員養成の拠点大学として、また、地域の 活性化を担う人材養成機関として、第2期中期目標期間に策 定した「北海道教育大学教員養成改革の基本方針」に基づ き、ステークホルダーの声を取り入れた教育課程改革を継続 的に進め、併せて教育方法と成績評価の改善・開発を推進す る。	全体の表記と合わせた。 なお、当該修正(「第2期」→「第2期中期目標期間」及び 「第3期」→「第3期中期目標期間」)は以下の整理番号 を付した中期目標でも行った。 番号:5、6、11、17
4	北海道教育大学 (中期目標) ○ グローバル人材育成を推進するにあたり、大学全体とし ての英語力の底上げが必要である。そのためには、学生に対 する英語教育プログラム内容を充実させるのはもちろん、英 語で教育を実践する教員の資質向上を図るとともに、グロー バル化推進に対応可能な職員の育成を図る。	12 グローバル人材育成を推進するにあたり、大学全体とし ての英語力の底上げが必要である。そのためには、学生に対 する英語教育プログラム内容を充実させるのはもちろん、英 語で教育を実践する教員の資質向上を図るとともに、 <u>グロー バル化</u> に対応可能な職員の育成を図る。	文言整理をした。

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
5	北海道教育大学 (中期目標) ○ 本学の目的と使命に基づく教育をより高いレベルで実践するため、入学者選抜では、大学入試センター試験に加えて、小論文、面接、実技、調査書等に基づき、総合的に評価してきた。 (中略) さらに、平成28年度入試から、教員養成課程においては教科の基礎的・基本的な知識・技能などを活用して、思考力、判断力、表現力を問う教科試験を導入、実施することとした。第3期では、高大接続を実現するため、新たに入試戦略室(仮)を設置し、これらの入学者選抜方法を検証し、地域の学校教育を担う人材や地域の成長に貢献する人材に相応しい能力、意欲、適性を備えた学生を確保できるよう、アドミッション・ポリシーに基づくより適切な入学者選抜方法へ改善する。	6 本学の目的と使命に基づく教育をより高いレベルで実践するため、入学者選抜では、大学入試センター試験に加えて、小論文、面接、実技、調査書等に基づき、総合的に評価してきた。 (中略) さらに、平成28年度入試から、教員養成課程においては教科の基礎的・基本的な知識・技能などを活用して、思考力、判断力、表現力を問う教科試験を導入、実施することとした。第3期中期目標期間では、 <u>高大接続を重視した入学試験を実現</u> するため、新たに入試戦略室(仮)を設置し、これらの入学者選抜方法を検証し、地域の学校教育を担う人材や地域の成長に貢献する人材に相応しい能力、意欲、適性を備えた学生を確保できるよう、アドミッション・ポリシーに基づくより適切な入学者選抜方法へ改善する。	記載内容をより分かり易くするため、文言整理をした。
6	北海道教育大学 (中期目標) ○ 資産と資金の有効な運用を行う。	21 安定した大学運営を行うため、資産と資金の有効な運用を行う。	具体的な記載内容に変更した。
7	小樽商科大学 (中期目標)前文・一部抜粋 この宣言に基づき、本学が目指す豊かな教養と外国語能力を基礎とした深い専門知識を有し、グローバルな視点から地域経済の発展に貢献できる人材(グローバル人材)の育成を目指した新たな教育プログラム「グローバル・マネジメント副専攻プログラム」を平成27年度に導入するとともに、北海道経済の活性化を目的としてグローバル戦略推進センターを設置した。	(中期目標)前文・一部抜粋 この宣言に基づき、本学が目指す豊かな教養と外国語能力を基礎とした深い専門知識を有し、グローバルな視点から地域経済の発展に貢献できる人材(グローバル人材)の育成を目指した新たな教育プログラム「グローバル・マネジメント副専攻プログラム」を平成27年度に導入するとともに、北海道経済の活性化を目的としてグローバル戦略推進センターを設置した。	表記に誤りがあったため
8	旭川医科大学 (前文)大学の基本的な目標 旭川医科大学は、地域医療を担う人材育成という大学設置の原点を踏まえ、更なる教育・研究・医療等の発展、意欲ある医療人の育成、社会貢献等を果たすために、以下の基本的な目標を定める。	旭川医科大学は、地域医療を担う人材育成という大学設置の原点を踏まえ、更なる教育・研究・医療等の発展、意欲ある医療人の育成、社会貢献等を果たすために、以下の基本的な目標を定める。	文言を統一するため「ために」を「ため」に修正した。
9	旭川医科大学 5 高度急性期医療と先進医療の両立を図り、多職種協働による質の高い医療を提供する体制を構築するとともに、医療機能連携の強化、高度な臨床研究の推進により優れた医療人を育成する。	5 高度急性期医療と先進医療の両立を図り、多職種協働による質の高い医療を提供する体制を構築するとともに、医療機能連携の強化及び高度な臨床研究の推進により優れた医療人を育成する。	適正な表記に文言を統一するため「、」を「及び」に修正した。

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
10	旭川医科大学 《1》 高度な知識・技術を身につけた医療人を育成するために、カリキュラムを整備し学習成果基盤型教育を構築する。	《1》 高度な知識・技術を身に付けた医療人を育成するため、カリキュラムを整備し学修成果基盤型教育を構築する。	・適正な表記にするため「つけた」を「付けた」に修正した。 ・字句を統一にするため「学習」を「学修」に修正した。
11	旭川医科大学 《2》 基本的診療能力、看護実践能力の向上のために、可視化された学修成果測定方法を開発する。	《2》 基本的診療能力及び看護実践能力の向上のため、 <u>技能・態度領域</u> に関する学修成果測定方法を開発する。	・適正な表記にするため「、」を「及び」に修正した。 ・具体的な取組内容を明記することで修正した。 ・文言を統一するため「ために」を「ため」に修正した。
12	旭川医科大学 《5》 学生の能動的学習をサポートする環境を構築するとともに、技能・態度領域に関する成績評価体制を整備する。	《5》 学生の能動的学修をサポートする環境を構築する。	・中期目標《2》を具体的な取組内容を明記することで、記載及び成果の評価が重複するため、該当部分を削除した。 ・適正な表記にするため「学習」を「学修」に修正した。
13	旭川医科大学 《9》 地域医療に対する強い意欲・使命感を持った入学者を選抜するために、特に北海道内の高等学校との高大連携活動を推進する。	《9》 地域医療に対する強い意欲・使命感を持った入学者を選抜するため、特に北海道内の高等学校との高大連携活動を推進する。	適正な表記にするため「ために」を「ため」に修正した。
14	旭川医科大学 《13》 道北・道東地域のニーズに対応する地域創生の拠点として、地域社会と連携し、全世代にわたる「ふるさと医療人」の育成事業を推進する。 また、少子高齢化社会の課題の解決を実践する地域包括医療(ケア)の新しいモデルを構築する教育・研究を展開する。	《13》 道北・道東地域のニーズに対応する地域創生の拠点として、地域社会と連携し、全世代にわたる「ふるさと医療人」の育成事業を推進する。 また、 <u>少子高齢社会</u> の課題の解決を実践する地域包括医療の新しいモデルを構築する教育・研究を展開する。	適正文言にするため「少子高齢化社会」を「少子高齢社会」と「地域包括医療(ケア)」を「地域包括医療」に修正した。
15	旭川医科大学 《15》 海外からの学生・研究者の受入れ及び海外への派遣をとおして、世界の人々の健康の保持増進を担い国際保健に貢献できる医療人を育成する。	《15》 <u>医療従事者、研究者及び学生の海外からの受入れ及び海外への派遣</u> をとおして、世界の人々の健康の保持増進を担い国際保健に貢献できる医療人を育成する。	取組内容を分かり易く表記した。
16	旭川医科大学 《16》 実践的能力を備え、指導的役割も担うことができる質の高い医療人を養成するため、高度で先進的な教育・研修環境を整備し、さらに、それらを充実させることによって地域医療・教育・研究に一層貢献する。	《16》 実践的能力を備え、指導的役割も担うことができる質の高い医療人を養成するため、高度で先進的な教育・研修環境を整備し、さらに、それらを充実させることによって <u>地域医療、教育及び研究</u> に一層貢献する。	適正な表記に文言を統一するため「・」を「、」と「・」を「及び」に修正した。

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
17	旭川医科大学 《17》 健全な運営状況を確立するため、働きやすい就労環境や安心・安全な医療環境を充実させるとともに、ICT(情報通信技術)を活用した医療支援体制の強化と経営の改善に取り組むこと等により、病院機能を強化する。	《17》 健全な運営状況を確立するため、働きやすい就労環境や安心・安全な医療環境を充実させるとともに、ICT(情報通信技術)を活用した医療支援体制の強化と経営の改善に取り組むこと等により、病院機能を強化する。	適正な表記にするため「取組む」を「取り組む」に修正した。
18	旭川医科大学 《26》 効率的で健全な法人運営を推進するため、人事の在り方の見直し等による人件費の削減、管理的経費を含めた大学全体の物件費の削減により、支出の徹底した抑制を図る。	《26》 効率的で健全な法人運営を推進するため、人事の在り方の見直し等による人件費の削減及び管理的経費を含めた大学全体の物件費の削減により、支出の徹底した抑制を図る。	適正な表記にするため「、」を「及び」に修正した。
19	旭川医科大学 《30》 安全・快適なキャンパス及び、環境に配慮した長期にわたって持続可能なキャンパスを実現するために、キャンパスマスタープランに基づき施設整備を着実に実施する。	《30》 安全・快適で環境に配慮した持続可能なキャンパスを実現するため、キャンパスマスタープランに基づき施設整備を着実に実施する。	文言を具体的に分かり易くするため修正した。
20	旭川医科大学 《33》 危機管理体制の機能の充実・強化のために、把握したリスクに対する評価及び継続的な見直しに取り組む。	《33》 危機管理体制の機能の充実・強化のために、把握したリスクに対する評価及び継続的な見直しに取り組む。	適正な表記にするため「ために」を「ため」に修正した。
21	北見工業大学 (中期目標) 大学の基本的な目標 学士課程では基礎教育を重視し、学科間の垣根を取り払い、より一層の個性化、高度化、グローバル化を推進する。大学院課程では寒冷地域環境工学、エネルギー工学、工農、医工連携など実践的な教育研究を実施し、専門技術者、高度専門技術者を育成し社会的要請に応え社会で活躍できる人材を輩出する。学士課程及び大学院課程を通して、自然豊かな地域を活かしたフィールドワークの教育の場として全学的に環境教育を行い、「自然と調和したテクノロジー」の素養を持つ学生を育てる。この目的を達成するために第3期中期目標・中期計画の初期の段階で学部及び大学院博士前期課程の改組を実施する。	大学の基本的な目標 学士課程では基礎教育を重視し、学科間の垣根を取り払い、より一層の個性化、高度化、グローバル化を推進する。大学院課程では寒冷地域環境工学、エネルギー工学、工農、医工連携など実践的な教育研究を実施し、専門技術者、高度専門技術者を育成し社会的要請に応え社会で活躍できる人材を輩出する。学士課程及び大学院課程を通して、自然豊かな地域を活かしたフィールドワークの教育の場として全学的に環境教育を行い、「自然と調和したテクノロジー」の素養を持つ学生を育てる。この目的を達成するために第3期中期目標・中期計画期間中に学部及び大学院博士前期課程の改組を実施する。	素案の段階では、学部及び大学院博士前期課程組を平成29年度に同時改組する予定であったが、その後、博士前期課程を学年進行により平成33年度改組予定としたため。
22	弘前大学 ◆ 中期目標の期間及び教育研究組織  2 教育研究組織 この中期目標を達成するため、別表1に記載する学部、研究科及び別表2に記載する共同利用・共同研究拠点を置く。	◆ 中期目標の期間及び教育研究組織  2 教育研究組織 この中期目標を達成するため、別表に記載する学部、研究科を置く。	共同利用・共同研究拠点に申請中であった被ばく医療総合研究所が、拠点到認されなかったため。

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
23	弘前大学 別表1(学部, 研究科)	別表(学部, 研究科)	共同利用・共同研究拠点に申請中であった被ばく医療総合研究所が、拠点に認定されなかったため。
24	弘前大学 別表2(共同利用・共同研究拠点) 【共同利用・共同研究拠点】 被ばく医療総合研究所(認定申請中)	削除	共同利用・共同研究拠点に申請中であった被ばく医療総合研究所が、拠点に認定されなかったため。
25	宮城教育大学 (中期目標) (前文)教職大学院では、学校における実習などの授業の一環として、学修の成果を地域に還元する活動を行うと共に、リーガルマインドの醸成や地域協働、防災教育をテーマとした科目を整備している他、授業力向上と教育経営に関する実践と理論を往還する科目群も配置している。	(前文)教職大学院では、学校における実習などの授業の一環として、学修の成果を地域に還元する活動を行うと共に、リーガルマインドの醸成や地域協働、防災教育をテーマとした科目を整備している他、授業力向上と教育経営に関する理論と実践を往還する科目群も配置している。	表記を「理論と実践」に統一した。
26	宮城教育大学 (中期目標) (前文)第2期中期目標期間においては、英語教育の充実に努め、1年生と2年生のTOEIC受験の義務化、短期海外研修の充実、英語のみで行う英語関連授業、附属学校を核とした英語教育強化地域拠点事業などを実施している。	(前文)第2期中期目標期間においては、英語教育の充実に努め、1年生と2年生のTOEIC受験の義務化、短期海外研修の充実、英語のみで行う英語関連授業、附属学校を核とした英語教育強化地域拠点事業、 <u>小中併有免許講習(小学校教諭の中学校英語2種免許取得のための講習)</u> などを実施している。	取組事例の記載を追記した。
27	秋田大学 中期目標【31】信頼性の高い健全で適正な法人運営を行うとともに、引き続き法令遵守を徹底し、社会への説明責任を果たす。	健全な組織文化を醸成し、信頼性の高い適正な法人運営を行うとともに、法令遵守を徹底し、社会への説明責任を果たす。	平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果を踏まえた再発防止策を実施するにあたり、従来から実施している法令遵守の維持に関する取組との差別化を図り、社会からの信頼回復に向けた取組を確実に実行していくことを明示するため。

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
28 茨城大学	<p>前文 (前略)</p> <p>第3期中期目標・中期計画は教育、研究、社会貢献等の分野毎に策定されているが、実際には、複数の分野の計画が互いに関連し、多面的に取り組むことになる。そのため、中期目標の達成に向けた計画を以下に示す6つの戦略的取組にまとめ、大学運営の柱として推進する。</p> <p>1. 茨城大学型基盤学力育成 能動的学修の全学的な実施や教育の質保証システムの構築によって、ディプロマポリシーで定めた5つの茨大型基盤学力を身につけた人材を輩出する。その推進母体となる全学教育機構(仮称)を設置する。 (略)</p>	<p>前文 (前略)</p> <p>第3期中期目標・中期計画は教育、研究、社会貢献等の分野毎に策定されているが、実際には、複数の分野の計画が互いに関連し、多面的に取り組むことになる。そのため、中期目標の達成に向けた計画を以下に示す6つの戦略的取組にまとめ、大学運営の柱として推進する。</p> <p>1. 茨城大学型基盤学力育成 能動的学修の全学的な実施や教育の質保証システムの構築によって、ディプロマポリシーで定めた5つの茨大型基盤学力を身につけた人材を輩出する。その推進母体となる全学教育機構を設置する。 (中略)</p> <p><u>本学の第3期中期目標・中期計画は、教育研究活動の本質を踏まえ、中期目標・中期計画を大学運営の指針とし、PDCAサイクルを学内外に可視化させるため、計画項目それぞれに複数の評価指標を設定して、達成度を総合的に評価できるような記載とした。</u></p>	<p>全学教育機構について検討を進め、名称が確定したため(仮称)を削除しました。</p>
29 茨城大学	<p>中期目標2 【大学院における教育】修士課程・博士前期課程では、ディプロマポリシーで定めた5つの能力を涵養し、これを身につけた各分野の高度な人材を育成する。博士後期課程では、研究者育成のみならず、地域企業や公的機関など社会の幅広い分野で活躍できる理工学分野の高度専門職業人を養成する。</p> <p>(大学院修士課程・博士前期課程のディプロマポリシー) (中略)</p>	<p>中期目標2 【大学院における教育】修士課程・博士前期課程では、ディプロマポリシーで定めた5つの能力を涵養し、これを身につけた各分野の高度な人材を育成する。博士後期課程では、研究者育成のみならず、地域企業や公的機関など社会の幅広い分野で活躍できる理工学分野の高度専門職業人を養成する。</p> <p>(大学院修士課程・博士前期課程のディプロマポリシー) (中略)</p> <p><u>(大学院博士後期課程のディプロマポリシー)</u>  <u>専門分野の研究遂行能力:各専門分野で求められる高度な知識及び技能に基づき、高度な研究を自立して遂行しうる能力</u>  <u>普遍的課題解決能力:専門分野に限らず、関連する分野における課題を自ら発見・解決しうる能力</u>  <u>人間社会の俯瞰的理解:専門とする科学・技術の人間社会、特に経営、環境管理、ならびに組織運営における位置付けを理解できる能力</u>  <u>説明・情報発信能力:研究成果を、人間社会の中での位置付けとの関連で、専門外の人間にも説明すると共に、広く国内外に発信しうる能力</u>  <u>地域活性化に貢献しうる資質:専門性を活かすと共に、社会情勢を踏まえて地域の活性化に取り組む資質</u></p>	<p>修士課程及び大学院博士後期課程における教育を記載した計画であるため、大学院博士後期課程のディプロマポリシーを追記しました。</p>

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
30	筑波技術大学 (中期目標)Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標 3 事務等の効率化・合理化に関する目標 ②複雑化・高度化する業務に対応できる事務職員を育成するため計画的にSD研修を実施する。また、聴覚・視覚障害者のための大学として、最低限必要な能力の養成も併せて行う	(中期目標)Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標 3 事務等の効率化・合理化に関する目標 ②複雑化・高度化する業務に対応できる事務職員を育成するため計画的にSD研修を実施する。また、聴覚・視覚障害者のための大学として、最低限必要な能力の養成も併せて行う。	誤記等による修正
31	東京医科歯科大学 (中期目標)○共同利用・共同研究拠点 22)学内外の研究者、研究機関との交流・研究支援を推進し、国際的に先駆的な難治疾患克服のための共同研究体制を確立して、医療系総合大学の機能強化の役割を果たすとともに、研究者コミュニティに貢献する。	○共同利用・共同研究拠点 22)学内外の研究者、研究機関との交流・研究支援を推進し、学内外と連携して国際的に先駆的な難治疾患克服のための共同研究体制及び医歯工学融合分野の重点領域研究を推進する体制を確立して、医療系総合大学の機能強化の役割を果たすとともに、研究者コミュニティに貢献する。	<b>【変更理由】</b> 共同利用・共同研究拠点の認定に関するスケジュールが明確となったことから、共同利用・共同研究拠点として内定を得ている本学の附置研究所(生体材料工学研究所、難治疾患研究所)に係る左記目標について、再度見直しを行った結果、生体材料工学研究所に係る体制に関する記載を追加することとしたため。
32	東京農工大学 (中期目標) 8・大学が有する物的資源及び人的資源を有効活用し、持続的な地域貢献活動を展開し、広く社会に情報発信する。	(中期目標) 8・大学が有する物的資源及び人的資源を有効活用し、持続的な地域貢献・社会貢献活動を展開する。	社会貢献活動(社会人を対象とした教育の実施)を追記した。また、情報発信については、中期計画41でまとめて記載するため削除した。
33	東京海洋大学 (中期目標) (前文)大学の基本的な目標 我が国唯一の海洋系大学である東京海洋大学は「海を知り、守り、利用する」ための教育研究の中心拠点として、海洋に関する深い科学的認識を持ち、国際的に活躍できる高度な人材養成を行う。この基本的観点に立ち、本学は「ビジョン2027」に基づき、海洋に関する国際的に卓越した教育研究拠点を目指すと共に、研究者を含む高度専門職業人養成を核とした海洋に関する総合的な教育研究を行う。 我が国が海洋立国として発展し、国際貢献の一翼を担うために、海洋の開発及び利用と海洋環境の保全との調和を図りつつ、水産業の振興、海上輸送の確保等の他に、新たな海洋産業の創出とそれを支える人材の育成に責任を持つ立場から「海洋環境エネルギーに関する学部及び専攻」を創設して、新しい海洋開発産業に関わる国際スタンダードの人材養成を行うなど、持続的な「競争力」を持ち、高い付加価値を生み出す大学を実現させる。 (略)	(前文)大学の基本的な目標 我が国唯一の海洋系大学である東京海洋大学は「海を知り、守り、利用する」ための教育研究の中心拠点として、海洋に関する深い科学的認識を持ち、国際的に活躍できる高度な人材養成を行う。この基本的観点に立ち、本学は「ビジョン2027」に基づき、海洋に関する国際的に卓越した教育研究拠点を目指すと共に、研究者を含む高度専門職業人養成を核とした海洋に関する総合的な教育研究を行う。 我が国が海洋立国として発展し、国際貢献の一翼を担うために、海洋の開発及び利用と海洋環境の保全との調和を図りつつ、水産業の振興、海上輸送の確保等の他に、新たな海洋産業の創出とそれを支える人材の育成に責任を持つ立場から「海洋環境エネルギーに関する学部及び専攻」を創設して、新しい海洋開発産業に関わる国際スタンダードの人材養成を行うなど、持続的な「競争力」を持ち、高い付加価値を生み出す大学を実現する。 (略)	「～する。」「～させる。」などの使役・受身形の使用方法が統一されていなかったため使用方法を統一した。



	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
34	東京海洋大学 (中期目標) I-1-(1)-③ 海洋に関連する分野の職業人や一般人を含めて生涯を通じた高度な知識の習得及び社会との接続を意識した教育内容を充実し、社会における人材の高度化・多様化に対応した教育を強化する。	I-1-(1)-③ 海洋に関連する分野の職業人や一般人を含めて生涯を通じた高度な知識の習得及び社会との接続を意識した教育内容を充実させ、社会における人材の高度化・多様化に対応した教育を強化する。	・「～する。」、「～させる。」などの使役・受身形の使用方法が統一されていなかったため使用方法を統一した。
35	東京海洋大学 (中期目標) I-1-(3)-② 学部学生、大学院生並びに留学生の個別・多様な修学環境に配慮した支援を充実する。	I-1-(3)-② 学部学生、大学院生並びに留学生の個別・多様な修学環境に配慮した支援を充実させる。	・「～する。」、「～させる。」などの使役・受身形の使用方法が統一されていなかったため使用方法を統一した。
36	東京海洋大学 (中期目標) V-1-① キャンパスマスタープランを充実して教育研究の施設や環境の整備・充実を図るとともに、適切な管理運営を行うための施設マネジメントを推進する。	V-1-① キャンパスマスタープランを充実させ教育研究の施設や環境の整備・充実を図るとともに、適切な管理運営を行うための施設マネジメントを推進する。	・「～する。」、「～させる。」などの使役・受身形の使用方法が統一されていなかったため使用方法を統一した。
37	お茶の水女子大学 (中期目標前文) 2. 女子高等教育の継承と国際的発展 本学の教育・研究の歴史と実績を活かし、これまでに検証・蓄積されてきた知的・教育的資産を継承しつつ、女性の更なる活躍を促進するための教育・研究を推進して、豊かな見識と専門的知性を備え、国の内外で多様な活動を牽引する女性人材を育成する。 さらにそれらの教育・研究成果を国際的に展開し、グローバルなネットワークを構築する。	2. 女子高等教育の継承と国際的発展 本学の教育・研究の歴史と実績を活かし、これまでに検証・蓄積されてきた知的・教育的資産を継承しつつ、女性の更なる活躍を促進するための教育・研究を推進して、豊かな見識と専門的知性を備え、国の内外で多様な活動を牽引する女性人材を育成する。 さらに、それらの教育・研究成果を国際的に展開し、グローバルなネットワークを構築する。	適切な記載に変更する。

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
38	お茶の水女子大学 (中期目標前文) 3. 大学院課程の充実と国際的研究拠点の形成 本学の特色ある研究を活発に推進し、研究レベルの高度化と先進的な研究分野を開拓して学術と社会に貢献するために、新たな研究組織を構築し、国際的な研究拠点を形成する。同時に、得られた研究成果を踏まえた専門教育を充実させ、大学院教育の高度化・実質化を実現する。	3. 大学院課程の充実と国際的研究拠点の形成 本学の特色ある研究を活発に推進し、研究レベルの高度化と先進的な研究分野を開拓して学術と社会に貢献するために、新たな研究組織を構築し、国際的な研究拠点を形成する。第3期中期目標期間には、特に、人の発達過程における様々な課題を解決するための研究と、人が一生を通じて心身ともに健やかに暮らすための研究を推進し、その成果を社会に向けて発信する。 同時に、得られた研究成果を踏まえた専門教育を充実させ、大学院教育の高度化・実質化を実現する。	前文5. に記載していた内容について、より意義を強調するために記載位置を変更する。
39	お茶の水女子大学 (中期目標前文) 5. 附属学校等と連携した統合的な教育組織の強化 同一のキャンパスに設置されている大学と附属学校等が密接に連携し、伝統ある教育・研究資産を活用して、生涯にわたる学びを見通した統合的な教育理念と教育・研究組織を構築する。さらに、人の発達過程における様々な課題を解決するための研究や、人が一生を通じて心身ともに健やかに暮らせるための研究を推進し、それらの成果を、本学における乳幼児期からシニア世代までを通じた教育に活かし、人の生涯を通じた教育モデルとして国の内外に向けて発信する。	5. 附属学校等と連携した統合的な教育組織の強化 同一のキャンパスに設置されている大学と附属学校等が密接に連携し、伝統ある教育・研究資産を活用して、生涯にわたる学びを見通した統合的な教育理念と教育・研究組織を構築する。さらに、人の発達過程における課題解決に向けた研究や、心身ともに健やかな一生を送るための研究の成果を、本学における乳幼児期からシニア世代までを通じた教育に活かし、人の生涯を通じた教育モデルとして国の内外に向けて発信する。	前文3. に記載内容の一部を移動させたことに伴い変更する。
40	お茶の水女子大学 (中期目標前文) 6. 社会的、国際的貢献の促進 企業・行政・研究機関等の外部機関や地域との連携を更に深め、本学ならではの教育・研究の成果を社会に還元する。また、これまでの東日本大震災の被災地支援のための実践活動を更に深化させて、防災・減災対策や復興支援のための教育プログラムの作成、キャリア支援活動等を推進し、その成果を全国に向けて発信する。 国際的な課題解決に寄与できる女性リーダー育成のために、様々な国々との国際交流を更に促進する。アジア・アフリカ等の途上国女子教育の充実をはじめ、多くの国の女性たちの多様な活躍を支援し、平和な社会の構築と文化の発展に貢献する。	6. 社会的、国際的貢献の促進 企業・行政・研究機関等の外部機関や地域との連携・相互交流を更に深め、人間力強化を目指した本学ならではの教育・研究の成果を社会に還元する。また、これまでの東日本大震災の被災地支援のための実践活動を更に深化させて、防災・減災対策や復興支援のための教育プログラムの作成、キャリア支援活動等を推進し、その成果を全国に向けて発信する。 国際的な課題解決に寄与できる女性リーダー育成のために、様々な国々との国際交流を更に促進する。アジア・アフリカ等の途上国女子教育の充実をはじめ、多くの国の女性たちの多様な活躍を支援し、平和な社会の構築と文化の発展に貢献する。	より適切、明確な記載を目的として変更する。
41	お茶の水女子大学 (中期目標) 大学と企業の連携によるイノベーションの創出、社会や地域が持つ課題解決等に向けて、企業、地域住民、自治体、行政機関等との連携を推進する。【M13】	大学と企業の連携によるイノベーションの創出、社会や地域が持つ課題解決等に向けて、企業、地域住民、自治体、行政機関等との連携を推進・強化する。【M13】	実施内容をより明確にすることを目的として変更する。

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
42	一橋大学 (中期目標Ⅰ1(2)①) 学問への憧れと志を高め、学生の主体的学習活動を引き出すと同時に、提供する講義内容の国際標準化と教育スキルの向上を図る。	学問への憧れと志を高め、学生の主体的学修活動を引き出すと同時に、提供する講義内容の国際標準化と教育スキルの向上を図る。	字句修正
43	一橋大学 (中期目標Ⅰ1(3)②) 多様化する学生に対して、機動的かつ抜けのない学修・生活支援体制を確立する。	多様化する学生に対して、機動的かつ幅広く学修・生活支援を行う体制を確立する。	字句修正
44	一橋大学 (中期目標Ⅰ4(1)③) 内なるグローバル化を促進するため、短期及び中長期の受入留学生数を増加させる。	学内学修環境のグローバル化を促進するため、短期及び中長期の受入留学生数を増加させる。	分かりやすい表現に修正
45	一橋大学 (中期目標Ⅱ2①) 細分化、多様化しながら大きく変貌していく教育研究ニーズに対して、効果的に対応できる組織体制を構築し、学内資源の最適再配分を行う。	グローバル化とともに大きく変化していく教育研究ニーズに対して、効果的に対応できる組織体制を構築し、学内資源の最適再配分を行う。	字句修正。分かりやすい表現にした
46	一橋大学 (中期目標Ⅲ1①) 科研費等の外部研究資金や、一橋大学基金を含む寄付金などをより多く獲得し、教育研究のための財政基盤を強化する。	科研費等の外部研究資金や、一橋大学基金を含む寄附金などをより多く獲得し、教育研究のための財政基盤を強化する。	字句修正
47	一橋大学 (中期目標Ⅳ1①) より実効性の高い自己点検・評価体制を構築する。	実効性のより高い自己点検・評価体制を構築する。	字句修正。他の記載と統一
48	長岡技術科学大学 (中期目標) V-3 法令遵守等に関する目標 【30】研究及び研究者の不正が皆無であるこれまでの実績を継承し実行するため、教育・研究等に関連した法令及び学内規則等を遵守を徹底する。	【30】研究及び研究者の不正が皆無であるこれまでの実績を継承し実行するため、教育・研究等に関連した法令及び学内規則等の遵守を徹底する。	変更の理由 ・誤謬修正
49	富山大学 (中期目標) ◆ 中期目標の期間及び教育研究組織 2 教育研究組織 この中期目標を達成するため、別表1に記載する学部、研究科及び教育部並びに別表2に記載する共同利用・共同研究拠点を置く。	(中期目標) ◆ 中期目標の期間及び教育研究組織 2 教育研究組織 この中期目標を達成するため、別表に記載する学部、研究科及び教育部を置く。	共同利用・共同研究拠点の認定申請に採択されなかったため。

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
50	富山大学 (中期目標)【7】 ・全ての学生が充実した学生生活を送れるように、経済支援、障がい学生支援、留学生支援等も含めた総合的な支援・指導を行う。	(中期目標)【7】 ・全ての学生が充実した学生生活を送れるように、教育・学生支援機構を中心として、経済支援、障害学生支援、留学生支援等も含めた総合的な支援・指導を行う。	記載内容の正確性を期すため、字句修正を行った。
51	富山大学 (中期目標)【16】 ・地域活性化の中核拠点として、自治体と連携し、教育・研究・社会貢献の分野において、地域社会の活性化に寄与する。	(中期目標)【16】 ・地域活性化の中核拠点として、地域連携推進機構を中心に自治体と連携し、教育・研究・社会貢献の分野において、地域社会の活性化に寄与する。	記載内容の正確性を期すため、字句修正を行った。
52	富山大学 (中期目標)【43】 ・QOL(クオリティ・オブ・ライフ)向上の観点から、学生及び教職員に対する安全衛生管理体制を整備充実し、健康で、学びやすく、働きやすい環境作りを推進する。	(中期目標)【43】 ・QOL(Quality Of Life)向上の観点から、学生及び教職員に対する安全衛生管理体制を整備充実し、健康で、学びやすく、働きやすい環境作りを推進する。	文章を精査し、字句修正を行った。
53	富山大学 (中期目標)【別表】 別表1(学部、研究科等) 別表2(共同研究・共同研究拠点)	別表(学部、研究科等)	共同利用・共同研究拠点の認定申請に採択されなかったため、別表1の字句修正及び別表2の削除を行った。
54	金沢大学 (中期目標)[前文]3つめの○ ○ 本学を起点とする国内外の教育研究機関とのネットワーク等を活用し、(略)、大学のグローバル化を図る。	○ 本学を起点とする国内外の教育研究機関とのネットワーク等を活用し、(略)、本学のグローバル化を図る。	文言の統一
55	金沢大学 (中期目標)【8】 (略)、大学のグローバル化を推進する。	(略)、本学のグローバル化を推進する。	文言の統一
56	金沢大学 (中期目標)【9】 附属病院として、先進的医療を担う人材の育成や臨床研究を推進するとともに、地域の中核病院としての役割を担う。	先進的医療を担う人材の育成や臨床研究を推進するとともに、地域の中核病院としての役割を担う。	附属病院に関する目標の項目下であるため、「附属病院として、」を削除

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
57	金沢大学 (中期目標)[10] 学校教育学類及び教職大学院における教育研究活動への協力を組織的に推進するとともに、先導的・実験的な教育活動に取り組む。	附属学校園と学校教育学類及び教職大学院との協働により、教育研究活動を組織的に推進するとともに、先導的・実験的な教育活動に取り組む。	取組の趣旨をより正確に表現するため
58	金沢大学 (中期目標)[12] 大学の強みや特色を生かし、教育、研究、社会貢献等の機能を最大化できるガバナンス体制を構築する。	本学の強みや特色を生かし、教育、研究、社会貢献等の機能を最大化できるガバナンス体制を構築する。	文言の統一
59	福井大学 (中期目標) 2 研究に関する目標 (1)研究水準及び研究の成果等に関する目標  ② 科学技術の発展に寄与する学術研究あるいは地域・社会へ貢献する実践的な研究を推進する。	② 科学技術の発展に寄与する学術研究や地域・社会へ貢献する実践的な研究を推進する。	学術研究と実践的な研究は並存して推進すべきものであることを明記するため修正した。
60	福井大学 (中期目標) 1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標  ① 自己収入の増加や安定的な病院運営を推進する。	① 自己収入を増加させ安定的な大学運営を推進する。	病院のみならず、大学全体の安定的な運営の意味とした。
61	静岡大学 (中期目標) I-1-(3)目標番号6 学生に対する学習支援、生活支援、課外活動支援、就職支援等の学生支援を充実する。	学生に対する学習支援、生活支援、課外活動支援、就職支援等を充実する。	文言重複の修正
62	静岡大学 (中期目標) II-3目標番号21 教育研究組織の見直し及び教育研究上の要請に対応した効率的かつ柔軟な組織体制を構築する。	教育研究組織の見直し及び教育研究上の要請に対応した効率的な組織体制を構築する。	文言の修正
63	名古屋大学 (中期目標) (前文)大学の基本的な目標 ○名古屋大学松尾プラン2020 Nagoya University Matsuo Initiatives for Reformation, Autonomy and Innovation 2020 (NU MIRAI 2020)  (略)	(中期目標) (前文)大学の基本的な目標 ○名古屋大学松尾プラン2020 Nagoya University Matsuo Initiatives for <u>Reform</u> , Autonomy and Innovation 2020 (NU MIRAI 2020)  (略)	誤記があったため。

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
64 名古屋大学	(中期目標) 別表2(共同利用・共同研究拠点、教育関係共同利用拠点) 宇宙地球環境研究所(認定申請中) 未来材料・システム研究所(認定申請中) 情報基盤センター(認定申請中)	(中期目標) 別表2(共同利用・共同研究拠点、教育関係共同利用拠点) 宇宙地球環境研究所 未来材料・システム研究所 情報基盤センター	共同利用・共同研究拠点に認定されたため。
65 愛知教育大学	(中期目標) (前文)大学の基本的な目標  ⑤ 教育委員会や公立の連携協力校の長等が構成員となる 諮問会議の意見を反映させて、地域に開かれた大学、現職教員の学び直しの場を提供する大学としての教育研究活動、貢献活動を具体化する。	(中期目標) (前文)大学の基本的な目標  ⑤ 教育委員会や公立の連携協力校の長等が構成員となる 会議の意見を反映させて、地域に開かれた大学、現職教員の学び直しの場を提供する大学としての教育研究活動、貢献活動を具体化する。	今後の形態に即した名称にするため変更します。
66 愛知教育大学	(中期目標) Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標  1 組織運営の改善に関する目標  ③ 社会的要請を的確に反映するために、経営協議会及び教員養成の質向上に関する諮問会議、監事等の外部有識者の意見を本学の運営に活用する。	(中期目標) Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標  1 組織運営の改善に関する目標  ③ 社会的要請を的確に反映するために、経営協議会及び教員養成の質向上に関する会議、監事等の外部有識者の意見を本学の運営に活用する。	今後の形態に即した名称にするため変更します。
67 三重大学	(中期目標) 1 教育に関する目標 (2)教育の実施体制等に関する目標 1 (教育実施体制) 本学では、平成26年4月、全学的な教養教育の責任体制を明確にした「教養教育機構」を立ち上げ、全学の学生が共通に履修する「共通カリキュラム」と各学部の理念に基づく「目的別カリキュラム」を展開している。また、本学独自の取組として「三重大学教育GP(優れた取組)」制度を継続して実施するとともに、公募のヒアリングや成果発表会を全学FDとして実施してきている。第3期では、こうした取組をさらに充実するために、全学の教育カリキュラムの開発や実施に責任を有する教育会議、高等教育創造開発センターの機能を強化し、全学的で組織的な教学マネジメントシステムを確立・推進する。	(中期目標) (2)教育の実施体制等に関する目標 1 (教育実施体制) 本学では、平成26年4月、全学的な教養教育の責任体制を明確にした「教養教育機構」を立ち上げ、全学の学生が共通に履修する「共通カリキュラム」と各学部の理念に基づく「目的別カリキュラム」を展開している。また、本学独自の取組として「三重大学教育GP(優れた取組)」制度を継続して実施するとともに、公募のヒアリングや成果発表会を全学FDとして実施してきている。第3期では、こうした取組をさらに充実するために、全学の教育カリキュラムの開発や実施に責任を有する教育会議、高等教育創造開発センターの機能を強化し、全学的で組織的な教学マネジメントシステムを確立・推進する。	より正確性を高める表記に修正した。

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
68	三重大学 (中期目標) 4 その他の目標 (1)グローバル化に関する目標 3 (グローバル化に向けての地域社会と大学との協働) 地域社会がグローバル環境に適応するために、シンクタンク機能とグローバル人材供給機能を持つ大学への転換を図る。	(中期目標) 4 その他の目標 (1)グローバル化に関する目標 3 (グローバル化に向けての地域社会と大学との協働) 地域の国際化を支援するため、シンクタンク機能とグローバル人材供給機能を持つ大学への転換を図る。	より正確性を高める表記に修正した。
69	滋賀大学 (中期目標) 2 教育研究組織 本学にこの中期目標を達成するため、教育学部、経済学部、大学院教育学研究科および経済学研究科を置く。	(中期目標) 2 教育研究組織 この中期目標を達成するため、別表1に記載する学部及び研究科を置く。	第3期に新たな教育研究組織を新設するため。
70	滋賀大学 (中期目標) 19)地域の教員養成機能の中心であり経済経営系の高度専門職業人の育成機能としての滋賀大学の特色と強みを生かしながら、未来志向と文理融合をモットーに掲げ、社会の要請に機敏に対応し、大学の機能強化を推進する教育研究組織を編制する。	(中期目標) 19)地域の教員養成機能の中心であり経済経営系の高度専門職業人の育成機能を担う滋賀大学の特色と強みを生かしながら、未来志向と文理融合をモットーに掲げ、社会の要請に機敏に対応し、大学の機能強化を推進する教育研究組織を編制する。	字句修正のため。
71	京都工芸繊維大学 (中期目標) I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 4 その他の目標 (1)グローバル化に関する目標 ○「デザイン・建築」「繊維・高分子」及び「グリーンイノベーション」の3つの分野において、アジア地域の中心となる教育研究拠点を形成し、これまでの実績をもとにさらに先導的試行に挑戦し、我が国の社会のグローバル化を牽引する。	(中期目標) I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 4 その他の目標 (1)グローバル化に関する目標 ○「デザイン・建築」「繊維・高分子」及び「グリーンイノベーション」の3つの分野において、アジア地域の中心となる教育研究拠点を形成し、これまでの実績をもとにさらに先導的試行に挑戦し、我が国の社会のグローバル化を牽引する。	誤記を修正する。
72	京都工芸繊維大学 (中期目標) V その他業務運営に関する重要目標 3 法令遵守等に関する目標 ○ 学内規則を含めた法令順守や情報管理の徹底を図り、適正な大学運営を行う。	(中期目標) V その他業務運営に関する重要目標 3 法令遵守等に関する目標 ○ 学内規則を含めた法令遵守や情報管理の徹底を図り、適正な大学運営を行う。	用字の統一を図るため変更する。

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
73 兵庫教育大学	<p>(中期目標)  (前文)大学の基本的な目標  兵庫教育大学は、平成25・・・(略)、次の使命を遂行する。</p> <p>1.「現職教員に対する高度な専門性と実践的指導力の育成」(略)  2.「実践性に優れた新人教員の養成」(略)  3.「教育実践学の推進」(以下略)</p>	<p>(中期目標)  (前文)大学の基本的な目標  兵庫教育大学は、平成25・・・(略)、次の使命を遂行する。</p> <p>1.「現職教員に対する高度な専門性と実践的指導力の育成」(略)  2.「実践性に優れた新人教員及び心理専門職の養成」(略)  3.「教育実践学の推進」(以下略)</p>	<p>本学の特性を生かした学校教育分野の心理専門職の養成を明確にするため「心理専門職」を追記する。</p>
74 兵庫教育大学	<p>(中期目標)  01 本学の学士課程では、第2期中期目標期間中に定めた「教員養成スタンダード」に基づき教員養成教育の継続的な充実・発展に資する先進的な教育課程を編成し、深い教養に根ざし、実践力と人間性に優れた資質の高い新人教員を養成する。</p>	<p>(中期目標)  01 本学の学士課程では、第2期中期目標期間中に定めた教員養成スタンダードに基づき教員養成教育の継続的な充実・発展に資する先進的な教育課程を編成し、深い教養に根ざし、実践力と人間性に優れた資質の高い新人教員を養成する。</p>	<p>記述の統一  「教員養成スタンダード」の「」を削除する。</p>
75 兵庫教育大学	<p>(中期目標)  02 本学の修士課程では、我が国の学校教育において必要とする教科指導力の在り方を踏まえるとともに、教員養成スタンダード(大学院)に基づいた、より実践的なカリキュラム(教育課程)を編成し、実践的課題解決に資する研究指導體制を構築することにより、高度専門職業人としての教員を養成する。また、学校教育分野の心理専門職を養成する。</p>	<p>(中期目標)  02 本学の修士課程では、我が国の学校教育において必要とする教科指導力の在り方を踏まえるとともに、教員養成スタンダード(大学院)に基づいた、より実践的な教育課程を編成し、実践的課題解決に資する研究指導體制を構築することにより、高度専門職業人としての教員を養成する。また、学校教育分野の心理専門職を養成する。</p>	<p>記述の統一  「カリキュラム(教育課程)」を「教育課程」に修正する。</p>
76 兵庫教育大学	<p>(中期目標)  03 本学の専門職学位課程では、高度の専門性が求められる教職を担うことができる深い学識及び卓越した能力を持ちながら、学校現場において実践力や応用力などを発揮できる資質・力量を備えた指導的教員及び学校現場における新しい学校づくりの中核となり得る新人教員を育成する。</p>	<p>(中期目標)  03 本学の専門職学位課程では、高度の専門性が求められる教職を担うことができる深い学識及び卓越した能力を持ちながら、学校現場において実践力や応用力などを発揮できる資質・力量を備えた指導的教員及び学校現場における新しい学校づくりの中核となり得る新人教員を養成する。</p>	<p>記述の統一  「教員を養成する」に修正する。</p>
77 兵庫教育大学	<p>(中期目標)  07 アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)に基づき、本学が求める学生を多面的・総合的に評価判定する入学者選抜を実施する。</p>	<p>(中期目標)  07 アドミッション・ポリシーに基づき、本学が求める学生を多面的・総合的に評価判定する入学者選抜を実施する。</p>	<p>昨今では、アドミッション・ポリシーのみでも理解されているため、「(入学者受入れの方針)」を削除する。</p>



	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
78 兵庫教育大学	(中期目標) 11 教育実践学研究所の遂行のため、構成大学の協力体制のもと、充実した研究体制を整備する。	(中期目標) 11 教育実践学研究所の遂行のため、構成大学の協力体制のもと、充実した研究体制を整備構築する。	整備だけではなく、構築までを含んだ内容の目標に修正する。
79 兵庫教育大学	(中期目標) 14 「兵庫教育大学グローバル化戦略」に基づき、国際的な教育研究を推進し、海外諸機関との連携のもと、 <u>グローバル化</u> に対応した教育現場で活躍する人材を育成する。	(中期目標) 14 「兵庫教育大学グローバルイノベーション対応戦略」に基づき、国際的な教育研究を推進し、海外諸機関との連携のもと、教育現場で活躍する <u>グローバル化</u> に対応した人材を育成する。	素案作成時は、「兵庫教育大学グローバル化戦略」としていたが、「兵庫教育大学グローバルイノベーション対応戦略」として、平成28年3月に策定することとなったため、記述を修正するとともに文言の整理を行う。
80 奈良女子大学	(中期目標【1-3-2】) 障害をもつ学生に対する一人一人の実情に応じた的確な支援を行うために体制を充実する。	障害がある学生に対する一人一人の実情に応じた的確な支援を行うために体制を充実する。	・より適切な表現にするため。
81 奈良女子大学	(中期目標【3-1-2】) 従来の実績を踏まえ、地域の自治体等との連携の下、「大和・紀伊半島」地域の地方創生に取り組む。古都奈良に立地するという恵まれた環境を活かし、奈良女子大学を国際的な日本文化・日本社会研究の交流拠点にする試みと重ねてそれに取り組む。	従来の実績を踏まえ、地域の自治体等との連携の下、大和・紀伊半島地域の地方創生に取り組む。古都奈良に立地するという恵まれた環境を活かし、奈良女子大学を国際的な日本文化・日本社会研究の交流拠点にする試みと重ねてそれに取り組む。	・用語を統一するため。
82 島根大学	(中期目標) (前文) 島根大学の理念・目的 島根大学は、山陰地域における知と文化の拠点として培ってきた伝統と精神を重んじ、「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」を目指すとともに、学生・教職員の協働のもと、学生が育ち、学生とともに育つ大学づくりを推進する。 (中略) 第3期中期目標期間においては、これまでの大学の基本目標を堅持し、「地(知)の拠点整備事業」を梃子に地域活性の中核としての機能を充実させるとともに、特定の分野において世界をリードする教育研究拠点をめざし、進むべき方向性と育成すべき人材像を明確にし、大学の機能強化のための改革を積極的に進める。	(中期目標) (前文) 島根大学の理念・目的 島根大学は、山陰地域における知と文化の拠点として培ってきた伝統と精神を重んじ、「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」を目指すとともに、学生・教職員の協働のもと、学生が育ち、学生とともに育つ大学づくりを推進する。 (中略) 第3期中期目標期間においては、これまでの大学の基本目標を堅持し、「地(知)の拠点整備事業」及び「地(知)の拠点大学による地方創成推進事業」を梃子に地域活性の中核としての機能を充実させるとともに、特定の分野において世界をリードする教育研究拠点をめざし、進むべき方向性と育成すべき人材像を明確にし、大学の機能強化のための改革を積極的に進める。	地(知)の拠点大学による地方創成推進事業の採択に伴い、前文に追記するもの

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
83	島根大学 (中期目標) (前文) (略) 3. 地域資源を活用した文化の育成・産業振興、地域医療・地域包括ケアの充実などの社会貢献活動を推進する。「地(知)の拠点整備事業」を活用し、地域の課題解決を担う人材を輩出する。 (略)	(中期目標) (前文) (略) 3. 地域資源を活用した文化の育成・産業振興、地域医療・地域包括ケアの充実などの社会貢献活動を推進する。「地(知)の拠点整備事業」及び「地(知)の拠点大学による地方創成推進事業」を活用し、地域の課題解決を担う人材を輩出する。 (略)	地(知)の拠点大学による地方創成推進事業の採択に伴い、前文に追記するもの
84	島根大学 (中期目標) I 2(1)① 地域課題に密着した研究で成果を上げ、地域産業、地域社会の発展に役立て、地域の知の拠点としての役割を果たすとともに、研究成果の社会還元を図る。	(中期目標) I 2(1)① 地域課題に密着した研究で成果を上げ、地域産業、地域社会の発展に貢献し、地域の知の拠点としての役割を果たすとともに、研究成果の社会還元を図る。	字句の修正。
85	徳島大学 (中期目標) 別表2(共同利用・共同研究拠点) 先端酵素学研究所(認定申請中)	(中期目標) 別表2(共同利用・共同研究拠点) 先端酵素学研究所	先端酵素学研究所について、(認定申請中)を削除。共同利用・共同研究拠点に内定されたため。
86	愛媛大学 (中期目標) (前文)大学の基本的な目標 愛媛大学は、地域に立脚する総合大学として、教育、研究、社会貢献を一体的に推進し、「愛媛大学憲章」(平成17年3月制定、平成27年9月改訂)に謳う「学生中心の大学」「地域とともに輝く大学」「世界とつながる大学」の実現を目指す。	(前文)大学の基本的な目標 愛媛大学は、地域に立脚する総合大学として、教育、研究、社会貢献を一体的に推進し、「愛媛大学憲章」に謳う「学生中心の大学」「地域とともに輝く大学」「世界とつながる大学」の実現を目指す。	中期目標の前文に記載するに当たって、大学憲章の「制定日」「改訂日」を記載することは適切でないと判断したため、大学憲章の制定日及び改訂日に関する記述は削除することとした。
87	愛媛大学 (中期目標) (1)学士課程における教育内容の改善に関する目標 社会共創学部(仮)の新設を含む全学的な学部改編を通して、各学部がミッションの再定義を経て策定した育成人材像やディプロマ・ポリシーに掲げている専門的な能力とともに、「愛媛大学学生として期待される能力～愛大学生コンピテンシー～」(平成24年度策定)を育成するカリキュラムを開発・実施する。【1】	(1)学士課程における教育内容の改善に関する目標 社会共創学部の新設を含む全学的な学部改編を通して、各学部がミッションの再定義を経て策定した育成人材像やディプロマ・ポリシーに掲げている専門的な能力とともに、「愛媛大学学生として期待される能力～愛大学生コンピテンシー～」(平成24年度策定)を育成するカリキュラムを開発・実施する。【1】	社会共創学部の新設について、平成27年8月に正式に認可され、平成28年度からの設置が決定しているため、「(仮)」を削除することとした。

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
88	愛媛大学 (中期目標) (5)学習支援・学生支援の充実に関する目標 「愛媛大学の全学カリキュラム・ポリシー」(平成27年度策定)に基づき学生が入学から卒業・修了まで安心して充実した大学生活を送ることができるため、ハード面とソフト面の双方において学生への支援を推進する。【5】	(5)学習支援・学生支援の充実に関する目標 「愛媛大学の全学カリキュラム・ポリシー」(平成27年度策定)に基づき学生が入学から卒業・修了まで安心して充実した大学生活を送ることができるよう、ハード面とソフト面の双方において学生への支援を推進する。【5】	誤記のため。
89	愛媛大学 (中期目標) 別表2(共同利用・共同研究拠点, 教育関係共同利用拠点) (共同利用・共同研究拠点) 沿岸環境科学研究センター(認定申請中) 地球深部ダイナミクス研究センター(認定申請中) (教育関係共同利用拠点) 教育・学生支援機構教育企画室	別表2(共同利用・共同研究拠点, 教育関係共同利用拠点) (共同利用・共同研究拠点) <u>沿岸環境科学研究センター</u> <u>地球深部ダイナミクス研究センター</u> (教育関係共同利用拠点) 教育・学生支援機構教育企画室	平成28年度からの共同利用・共同研究拠点の認定を受けたため、「(認定申請中)」を削除することとした。
90	高知大学 (中期目標) I-1-(3) ①学生が地域社会に適応し、自律的で充実した大学生活を送ることができるよう、修学及び生活に関する支援、障がいを持つ学生への支援、キャリア形成や就職活動・インターンシップに関する支援体制を強化する。【4】	(中期目標) I-1-(3) ①学生が地域社会に適応し、自律的で充実した大学生活を送ることができるよう、修学及び生活に関する支援、障がいのある学生への支援、キャリア形成や就職活動・インターンシップに関する支援体制を強化する。【4】	「障害を持つ」という表現を「障害のある」という適切な表現に改める。
91	九州大学 (中期目標) 2. 英語のみで修了が可能な国際コースの設置やリーディングプログラムの実施など、本学の研究能力を活かした教育を推進してきたことを踏まえ、高度な専門知識・能力の育成と、グローバル化社会で求められる研究者像に対応した教育を実現する。	2. 英語のみで修了が可能な国際コースの設置や <u>博士課程教育</u> リーディングプログラムの実施など、本学の研究能力を活かした教育を推進してきたことを踏まえ、高度な専門知識・能力の育成と、グローバル社会で求められる研究者像に対応した教育を実現する。	プログラム等について、名称の正確性を期すため文言の修正を行った。
92	九州大学 (中期目標) 7. これまでに確立したリサーチ・アドミニストレーターをはじめとする高度専門職制度の一層の整備・拡充を図り、研究者の質の高い研究時間を確保し、個々の研究者の持つ意欲・能力が最大限に発揮できる研究支援体制を強化する。また、女性研究者の活躍促進につながる環境整備や女性研究者比率の増加などの実績を基盤として、意思決定過程へのさらなる女性の参画を推進するとともに、若手研究者、外国人研究者の積極的登用を行い研究人材と研究環境のダイバーシティを一層高める。	7. これまでに確立したリサーチ・アドミニストレーターをはじめとする高度専門職制度の一層の整備・拡充を図り、研究者の研究時間を確保し、個々の研究者の持つ意欲・能力が最大限に発揮できる研究支援体制を強化する。また、女性研究者の活躍促進につながる環境整備や女性研究者比率の増加などの実績を基盤として、意思決定過程へのさらなる女性の参画を推進するとともに、若手研究者、外国人研究者の積極的登用を行い研究人材のダイバーシティを一層高める。	文言の見直しによる修正を行った。

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
93	九州大学 (中期目標) 26. 九州大学における諸活動の質保証と改善に資する点検・評価活動及びIR活動を推進する。	26. 九州大学における諸活動の質保証と改善に資する点検・評価活動及びIR(インスティテューショナル・リサーチ)活動を推進する。	一般的にわかりにくい用語について、わかりやすい表現となるよう明記した。
94	九州工業大学 (中期目標)V-3 法令遵守に関する目標	V-3 法令遵守等に関する目標	誤記修正
95	九州工業大学 (中期目標)前文 【国際化】 海外大学等との連携を強化し、国際共同研究を発展させるほか、学生及び教職員の相互派遣を拡充するとともに、教育と研究のグローバル化に対応した教育システムや教育研究環境を整備する。	前文 【国際化】 海外大学等との連携を強化し、国際共同研究を発展させるほか、学生及び職員 <del>の</del> 相互派遣を拡充するとともに、教育と研究のグローバル化に対応した教育システムや教育研究環境を整備する。	用語統一のための修正
96	九州工業大学 (中期目標)4 国際的通用性のある技術者を育成する教育の質を保証するため、教育システムの国際基準に則った認定を更新し、産業界の要請等を取り入れるとともに、FD(Faculty Development: 教員が授業方法等を改善するための組織的取組)活動による教育の継続的な改善を実施する。	4 国際的通用性のある技術者を育成する教育の質を保証するため、教育システムの国際基準に則った認定を更新し、産業界の要請等を取り入れるとともに、FD(Faculty Development: 教育職員が授業方法等を改善するための組織的取組)活動による教育の継続的な改善を実施する。	用語統一のための修正
97	九州工業大学 (中期目標)6 大学の資源を活用して、学生の生活支援を行うほか、学生の課外活動への民間企業等からの支援を拡充する。 また、障がいを持つ学生等に対する効果的な支援を実施する。	6 大学の資源を活用して、学生の生活支援を行うほか、学生の課外活動への民間企業等からの支援を拡充する。 また、障がいのある学生等に対する効果的な支援を実施する。	表現の修正
98	九州工業大学 (中期目標)9 特色ある研究活動の強化を行い、研究の質の向上を行うために、教員配置計画の見直しや若手教員の育成制度等の研究環境を整備する。	9 特色ある研究活動の強化を行い、研究の質の向上を行うために、教育職員配置計画の見直しや若手教育職員の育成制度等の研究環境を整備する。。	用語統一のための修正
99	佐賀大学 【中期目標14】 教育研究の成果を積極的かつ効果的に地域社会に還元する。特に、教員養成分野は、佐賀県教育委員会等との連携により、義務教育諸学校に関する地域の教員養成機能の中心的役割を担う。	教育研究の成果を積極的かつ効果的に地域社会に還元する。特に、教員養成分野は、佐賀県教育委員会等との連携により、義務教育諸学校における地域の教員養成機能の中心的役割を担う。	中期目標・中期計画の文言を正確に表記するため
100	佐賀大学 【中期目標26】 大学の運営状況を踏まえ、人件費を効果的に抑制する。	大学の経営状況を踏まえ、人件費を効果的に抑制する。	中期目標・中期計画の表記の統一及び文言を正確に表記するため

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
101	佐賀大学 【中期目標29】 IRをさらに進め、大学経営のPDCAサイクルを高度化し、大学の機能を強化する。	IRを更に進め、大学経営のPDCAサイクルを高度化し、大学の機能を強化する。	中期目標・中期計画の表記を統一するため
102	長崎大学 (中期目標)別表2  (共同利用・共同研究拠点) 熱帯医学研究所(認定申請中) 原爆後障害医療研究所(認定申請中) (教育関係共同利用拠点) 水産学部附属練習船長崎丸 環東シナ海環境資源 研究センター	(共同利用・共同研究拠点) 熱帯医学研究所 原爆後障害医療研究所 (教育関係共同利用拠点) 水産学部附属練習船長崎丸 水産・環境科学総合研究科附属環東シナ海環境資源研究センター	熱帯医学研究所及び原爆後障害医療研究所が共同利用・共同研究拠点に認定されることに伴い、(認定申請中)の記載を削除するものである。 また、教育関係共同利用拠点を正式な名称に修正するものである。
103	熊本大学 (中期目標:前文) 自然科学領域における先進マグネシウム科学……	(中期目標:前文) 自然科学領域における先進マグネシウム合金……	(理由) 誤植
104	熊本大学 (中期目標:前文) 次世代の本学……	(中期目標:前文) 次世代の熊本大学……	(理由) 誤植
105	熊本大学 (中期目標:前文) 教育面では、スーパーグローバル大学(SGU)として、	(中期目標:前文) 教育面では、スーパーグローバル大学として、	(理由) 商標の登録があるため。
106	熊本大学 (中期目標:前文) また、社会人教育に関しては、地域からの要請に対応し、本学の教育研究の成果を活用して、社会人再教育プログラムを地域社会へ提供する。	(中期目標:前文) また、社会人教育に関しては、地域からの要請に対応し、熊本大学の教育研究の成果を活用して、社会人再教育プログラムを地域社会へ提供する。	(理由) 誤植
107	熊本大学 (中期目標:前文) 医学・医療分野では、県内唯一の医育機関及び特定機能病院として、	(中期目標:前文) 医学・医療分野では、県内唯一の医育機関及び特定機能病院を有する大学として、	(理由) 脱字

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
108	熊本大学 (中期目標:3) 1) 学生主体の学習支援や生活支援のための相談・助言等の体制、経済支援、キャリア支援を拡充するとともに、学生の課外活動及び自主的活動の支援を促進する。また、グローバル化に対応した学生支援を行う。	(中期目標:3) 1) 学生主体の学修支援や生活支援のための相談・助言等の体制、経済支援、キャリア支援を拡充するとともに、学生の課外活動及び自主的活動の支援を促進する。また、グローバル化に対応した学生支援を行う。	(理由) 誤字
109	熊本大学 (中期目標:目標8) 2) 大学の枠を超えた国際的な共同利用・共同研究拠点の機能強化を図り、 <u>本学</u> の特性と研究環境基盤を確立する。【目標8】	(中期目標:目標8) 2) 大学の枠を超えた国際的な共同利用・共同研究拠点の機能強化を図り、 <u>熊本大学</u> の特性と研究環境基盤を確立する。【目標8】	(理由) 誤植
110	熊本大学 (中期目標:目標27) 1) 本学の現況について、情報公開を適切に実施するとともに、情報発信機能を一層強化し、国内外への情報発信を効果的かつ積極的に行うことによって、 <u>本学</u> の認知度及び社会的評価を向上させる。	(中期目標:目標28) 1) 熊本大学の現況について、情報公開を適切に実施するとともに、情報発信機能を一層強化し、国内外への情報発信を効果的かつ積極的に行うことによって、 <u>熊本大学</u> の認知度及び社会的評価を向上させる。	(理由) 誤植
111	鹿児島大学 (中期目標)【A 7】アドミッション・ポリシーに基づき能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価する入学者選抜を実施する。	【A 7】中央教育審議会「高大接続答申」(平成26年12月22日)で指摘されている学力の3要素(①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性・多様性・協働性)等を踏まえて、 <u>現在のアドミッション・ポリシー</u> をさらに明確化し、能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価する入学者選抜を実施する。	答申等を踏まえた明確な目標であることを表現するため、具体的な内容を追加した。
112	鹿屋体育大学 【中期目標20】大学のグローバル化を推進するため、国際交流・協力を推進する。	【中期目標20】国際交流や連携事業を通して大学のグローバル化を推進し、 <u>グローバルに活躍できる人材の養成</u> を行う。	グローバル化を推進するための手段を記載した。
113	政策研究大学院大学 【中期目標】 14 政策研究に必須の情報資料を総合的・体系的に収集・公開するなど、研究者が、より水準の高い研究を遂行しやすい環境の整備を図る。	【中期目標】 14 政策研究に必須の情報資料を収集・公開するなど、研究者が、より水準の高い研究を遂行しやすい環境の整備を図る。	運営費交付金による予算の確保が困難となり、当初計画していたアーカイブセンターの設置が実現不可能となったため。

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
114 総合研究 大学院大学	(中期目標前文)	(中期目標前文) 文末に以下の記述を追加。 なお、本学の教育研究は、 <u>国立大学法人法及び法人間協定に基づき、機構等法人間との緊密な関係及び協力の下に行われる。</u>	本学の特性である法人法別表備考2「総合研究大学院大学は、大学共同利用機関法人及び国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構との緊密な関係及び協力の下に教育研究を行うものとする。」について、第1・2期同様、中期目標・中期計画に記載する必要があるため。

(大学共同利用機関法人)

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
1 人間文化 研究機構	(中期目標) 人間文化に関する資料等の文化資源を調査・収集し、分析・整備を加えて研究資源として発信することにより、 <u>研究環境を整備して共同利用を促進するとともに、それらの研究資源を活用して共同研究を推進する。</u> ～(略)【目標3】	人間文化に関する資料等の文化資源を調査・収集し、分析・整備を加えて研究資源として発信することにより、 <u>共同利用を促進するとともに、それらの研究資源を活用して共同研究を推進する。</u> ～(略)【目標3】	「人間文化に関する資料等の文化資源を調査・収集し、分析・整備を加えて研究資源として発信すること」が研究環境の整備であり、記述が重複しているため、削除
2 人間文化 研究機構	(中期目標) 共同利用や共同研究を通じて、国内外大学等研究機関への貢献度を高める体制を整備する。【目標4】	共同利用や共同研究を通じて、国内外大学等研究機関への貢献度を高める体制、 <u>並びに評価体制を整備する。</u> 【目標4】	具体的な取組内容の追記
3 人間文化 研究機構	(中期目標) ①国民にとっての～(略)また、様々な機会を通じて広く社会と連携した <u>取り組み</u> を実施する。【目標7】	①国民にとっての～(略)また、様々な機会を通じて広く社会と連携した <u>取組</u> を実施する。【目標7】	字句修正
4 人間文化 研究機構	(中期目標) ④男女共同参画社会の形成に向けた <u>取り組み</u> として、「女性の活躍推進」を促進する。【目標15】	④男女共同参画社会の形成に向けた <u>取組</u> として、「女性の活躍推進」を促進する。【目標15】	字句修正
5 人間文化 研究機構	(中期目標) 機構のガバナンスの強化の観点から、事務業務にかかる組織編成の見直しに関する施策を推進する。また、継続的に既存業務を検証し、事務業務の効率化、合理化を図る。【目標17】	機構のガバナンスの強化の観点から、事務業務に係る組織編成の見直しに関する施策を推進する。また、継続的に既存業務を検証し、事務業務の効率化、合理化を図る。【目標17】	字句修正
6 自然科学 研究機構	(中期目標)【前文】 <略>各機関の特色を活かしながら、<略>	【前文】 <略>本機構が設置する各大学共同利用機関(以下「各機関」という。)の特色を活かしながら、<略>	字句修正
7 自然科学 研究機構	(中期目標)【前文】 <略>第3期における<略>	【前文】 <略>第3期中期目標期間における<略>	字句修正

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
8	自然科学研究機構 (中期目標)【2】 ＜略＞また、日米中印加による国際共同科学事業である30m光赤外線望遠鏡(TMT)計画のメンバー機関として、アメリカ合衆国ハワイ州において建設を推進する。	【2】 ＜略＞また、日米中印加による国際共同科学事業である30m光学赤外線望遠鏡(TMT)計画のメンバー機関として、アメリカ合衆国ハワイ州において建設を推進する。	字句修正
9	自然科学研究機構 (中期目標)【3】 核融合科学分野では、我が国における核融合科学研究の核融合科学研究の中核機関として、大学や研究機関と共に核融合科学及び関連理工学の学術的体系化と発展を図る。＜略＞	【3】 核融合科学分野では、我が国における核融合科学研究の核融合科学研究の中核的研究拠点として、大学や研究機関とともに核融合科学及び関連理工学の学術的体系化と発展を図る。＜略＞	字句修正
10	自然科学研究機構 (中期目標)【4】 基礎生物学分野では、遺伝子・細胞・組織・個体の多階層における独創的な研究や研究技術・手法の開発を推進することにより、生物現象の基本原則に関する統合的理解を深め、国内生物学コミュニティを先導するとともに、卓越した国際的研究拠点として、基礎生物学分野の発展に寄与する。	【4】 基礎生物学分野では、遺伝子・細胞・組織・個体の多階層における独創的な研究や研究技術・手法の開発を推進することにより、生物現象の基本原則に関する統合的理解を深め、国内生物学コミュニティを先導し、基礎生物学分野の発展に寄与する。	字句修正
11	自然科学研究機構 (中期目標)【10】 自然科学分野において国際的に通用する高度な研究的資質を持ち、広い視野を備えた研究者を育成するため、総合研究大学院大学との一体的関係及びその他の大学との多様な連携によって、自然科学研究機構の高度の人材・研究環境を活かして、特色ある大学院教育を実施する。	【10】 自然科学分野において国際的に通用する高度な研究的資質を持ち、広い視野を備えた研究者を育成するため、総合研究大学院大学(以下「総研大」という。)との一体的関係及びその他の大学との多様な連携によって、自然科学研究機構の高度の人材・研究環境を活かして、特色ある大学院教育を実施する。	字句修正
12	自然科学研究機構 (中期目標)【16】 新たな学問分野の創出、共同利用・共同研究機能の向上の観点から、各機関の研究組織を見直し、必要な体制整備、組織再編等を行う。	【16】 新たな学問分野の創出、共同利用・共同研究機能の向上の観点から、各機関等の研究組織を見直し、必要な体制整備、組織再編等を行う。	字句修正
13	自然科学研究機構 (中期目標)【24】 事故及び災害を未然に防止するため、広く安全管理体制の強化を図り、役職員の意識向上を通じた安全文化の醸成に取り組む。＜略＞	【24】 事故及び災害を未然に防止するため、広く安全管理・危機管理体制の強化を図り、役職員の意識向上を通じた安全文化の醸成に取り組む。＜略＞	体制の強化事項を追加
14	自然科学研究機構 (中期目標)【25】大項目名 3 法令遵守に関する目標	【25】大項目名 3 法令遵守等に関する目標	字句修正



	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
15	高エネルギー加速器研究機構  (中期目標) (前文)研究機構の基本的な目標 高エネルギー加速器研究機構(以下「KEK」という。)は、我が国の学術研究の中核的システムである「大学共同利用」を行うため1971年に設立された高エネルギー物理学研究所を起源とする。KEKは、我が国の加速器科学の総合的発展の国際的な拠点として、国内外の研究者が最先端の研究施設等を用いた共同利用・共同研究を実施し、人類の知的資産の拡大に貢献してきた。	(前文)研究機構の基本的な目標 高エネルギー加速器研究機構(以下「KEK」という。)は、我が国の学術研究の中核的システムである「大学共同利用」を行うため昭和46年に設立された高エネルギー物理学研究所を起源とする。KEKは、我が国の加速器科学の総合的発展の国際的な拠点として、国内外の研究者が最先端の研究施設等を用いた共同利用・共同研究を実施し、人類の知的資産の拡大に貢献してきた。	年号を和暦に統一
16	情報・システム研究機構  (中期目標)(前文) 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構(以下「機構」という)は、 <u>機構長のリーダーシップのもと</u> 、極域科学、情報学、統計数理、遺伝学についての <u>中核的機関</u> を設置し、全国の大学等の研究者コミュニティと連携して、世界水準の総合研究を推進するとともに(中略) 研究面では、各々の研究領域における我が国の中核的機関として、世界水準の先進的研究を推進するとともに、新たな研究パラダイムの構築と新分野の開拓を行う。また、多様なプロジェクト型研究活動を実施するため、幅広い人材を活用した研究体制を確保するとともに、その研究実施体制の検証と改革を進める。 (中略)不断の見直しを行って国内外研究機関との連携を深化させる。また、学術研究基盤の大学等の研究者への提供や分野を超えた取組の推進により、学術の進展に寄与する。 教育面では、総合研究大学院大学との一体的関係や他大学との組織的連携・協力によって高度な専門性を持ち、国際的に活躍できる若手研究者を育成する。(中略) 業務運営においては、 <u>機構長のリーダーシップのもと</u> 、機構の強みや特色を生かして戦略的かつ効率的な運営を行い、教育、研究、社会貢献の機能を最大化できるガバナンス体制を構築する。(後略)	(中期目標)(前文) 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構(以下「機構」という)は、極域科学、情報学、統計数理、遺伝学に関わる分野の <u>中核機関</u> を設置し、 <u>機構長のリーダーシップのもと</u> 、全国の大学等の研究者コミュニティと連携して、世界水準の総合研究を推進するとともに(中略) 研究面では、各々の研究領域における我が国の中核機関として、世界水準の先進的研究を推進するとともに、新たな研究パラダイムの構築と新分野の開拓を行う。また、多様なプロジェクト型研究活動を実施するため、幅広い人材を活用した研究体制を確保するとともに、その実施体制の検証と改革を進める。 (中略)不断の見直しを行って国内外の大学等との連携を深化させる。また、学術研究基盤の大学等の研究者への提供や分野を超えた取組の推進により、学術の進展に貢献する。 教育面では、総合研究大学院大学との一体的関係や他大学との組織的連携協力によって、高度な専門性を持ち、国際的に活躍できる若手研究者を育成する。(中略) 業務運営においては、機構の強みや特色を生かして戦略的かつ効率的な運営を行い、教育、研究、社会貢献の機能を最大化できるガバナンス体制を構築する。(後略)	「機構長のリーダーシップのもと」という文言をより適切な位置に移動し、業務運営部分にも同じ文言があったため削除した。また、分野が限定されないよう、「極域科学、情報学、統計数理、遺伝学についての」を「極域科学、情報学、統計数理、遺伝学に関わる分野の」に変更した。 さらに文言を統一するため、「中核的機関」を「中核機関」に、「先進的研究」を「先進的な研究」に、「研究実施体制」を「実施体制」に、「国内外研究機関」を「国内外の大学等」に、「寄与する」を「貢献する」に、「連携・協力」を「連携協力」に変更した。
17	情報・システム研究機構  (中期目標)【1】 生命、地球・環境、人間・社会などの複雑な現象を情報とシステムという視点から捉え、新たな研究パラダイムの構築及び新分野の開拓を行うとともに、各々の研究領域における我が国の中核的機関として、学術と社会の要請に基づいた世界水準の先進的研究を推進し、優れた研究成果を挙げる。あわせて、データと知識の共有と解析及び <u>それらの活用</u> を目指した研究の発展に貢献する。	(中期目標)【1】 生命、地球・環境、人間・社会などの複雑な現象を情報とシステムという視点から捉え、新たな研究パラダイムの構築及び新分野の開拓を行うとともに、各研究所は各々の研究領域における我が国の中核機関として、研究者コミュニティと社会の要請に基づいて世界水準の先進的研究を推進し、優れた研究成果を挙げる。あわせて、データと知識の共有と解析及び <u>これら</u> の活用を目指した研究の発展に貢献する。	文章をわかりやすくするため、「各々の研究領域における」を「各研究所は各々の研究領域における」に、「学術と社会の要請に基づいた」を「研究者コミュニティと社会の要請に基づいて」に変更した。 また、文言を統一するため、「中核的機関」を「中核機関」に、「先進的研究」を「先進的な研究」に、「それらの活用」を「これらの活用」に変更した。

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
18	情報・システム研究機構 (中期目標)【2】 国内外と連携した総合研究を推進し、多様なプロジェクト型研究活動を実施するため、幅広い人材を活用した研究体制を確保するとともに、その研究実施体制の検証と必要に応じた改革を進める。	(中期目標)【2】 国内外の大学等と連携した総合研究を推進し、多様なプロジェクト型研究活動を実施するため、幅広い人材を活用した研究体制を確保するとともに、その研究実施体制の検証と必要に応じた改革を進める。	「国内外と連携した」について、連携する対象を明確にするため、「の大学等」を追記した。
19	情報・システム研究機構 (中期目標)【4】 研究所の特性に応じて共同利用・共同研究体制を強化し、当該分野の国際的中核拠点としての機能を充実させ、国際競争力を高める。また、データの共有、解析、高度活用のための組織を設置して、支援事業、戦略プログラム及び人材育成を推進し、データサイエンスの国際研究拠点に発展させる。	(中期目標)【4】 各研究分野の特性に応じて共同利用・共同研究体制を強化し、当該分野の国際的な中核拠点としての機能を充実させ、国際競争力を高める。また、データの共有、解析、高度活用のための組織を設置して、支援事業、戦略プログラム及び人材育成を推進し、データサイエンスの国際研究拠点に発展させる。	文言を統一するため、「研究所」を「各研究分野」に、「国際的中核拠点」を「国際的な中核拠点」に変更した。
20	情報・システム研究機構 (中期目標)【5】 大学共同利用機関として、総合研究大学院大学との一体的関係や他大学との多様な連携・協力による教育活動を一層進め、高度な専門性を持ち、国際的に活躍できる研究者を育成する。	(中期目標)【5】 大学共同利用機関法人として、総合研究大学院大学との一体的関係や他大学との多様な連携協力による教育活動を一層進め、高度な専門性を持ち、国際的に活躍できる研究者を育成する。	文言を統一するため、「大学共同利用機関」を「大学共同利用機関法人」に、「連携・協力」を「連携協力」に変更した。
21	情報・システム研究機構 (中期目標)【8】 国際研究拠点としての機能を強化するため、国際共同研究や国際シンポジウムを実施するとともに、研究者、学生の派遣・招へいによる国際交流の推進や多様な研究者の確保を図る。	(中期目標)【8】 国際研究拠点としての機能を強化するため、国際共同研究や国際シンポジウムを実施するとともに、研究者、大学院生の派遣・招へいによる国際交流の推進や多様な研究者の確保を図る。	文言を統一するため、「学生」を「大学院生」に変更した。
22	情報・システム研究機構 (中期目標)【10】 機構長のリーダーシップのもと、機構の強みや特色を生かした戦略的かつ効率的な運営を行い、教育、研究、共同利用、社会貢献の機能を最大化できるガバナンス体制の構築や人事制度の改革を行う。	(中期目標)【10】 機構の強みや特色を生かした戦略的かつ効率的な運営を行い、教育、研究、共同利用、社会貢献の機能を最大化できるガバナンス体制の構築や人事制度の改革を行う。	本目標は、機構が目指す目標であり、機構長のリーダーシップのもとで実施することは自明であるため、「機構長のリーダーシップのもと、」を削除した。
23	情報・システム研究機構 (中期目標)【11】 機構長のリーダーシップのもと、現在の枠組みにとらわれない体制整備や組織の再編等を行って新たな研究組織を整備する。	(中期目標)【11】 現在の枠組みにとらわれない体制整備や組織の再編等を行って新たな研究組織を整備する。	本目標は、機構が目指す目標であり、機構長のリーダーシップのもとで実施することは自明であるため、「機構長のリーダーシップのもと、」を削除した。

	素案の記述	検討後の記述	変更の理由等
24	情報・システム研究機構 (中期目標)【12】 事務局体制の強化を図るとともに、現在の枠組みにとらわれない事務の効率化・合理化を進める。	(中期目標)【12】 事務機能の強化を図るため、事務の効率化・合理化を進める。	「事務局体制の強化」については、中期計画【62】に記載したため、「事務機能の強化」に変更した。
25	情報・システム研究機構 (中期目標)【16】 研究体制、共同利用・共同研究体制や業務運営体制を適宜見直し、改善・強化するために自己点検、外部評価等を充実する。	(中期目標)【16】 研究体制、共同利用・共同研究体制や業務運営体制を適宜見直し、改善・強化するために自己点検、外部評価を充実する。	「外部評価等」の「等」は不要であると判断したため、「外部評価」に変更した。
26	情報・システム研究機構 中期目標【19】 教職員等の健康・安全管理、事故防止に取り組むとともに環境保全を図る。	中期目標【20】 教職員等の健康と事故防止及び教育研究環境の保全を図る。また、極域での観測や実験の安全管理と危機管理に取り組む。	教職員等の健康や安全に加えて、極地研で実施している極域観測及び遺伝研で実施している動物実験や組換え実験については、国民や社会に対する安全管理や危機管理に万全を期す必要があることから、中期計画だけではなく、中期目標にも記載すべきと判断し、追記を行った。
27	情報・システム研究機構 (中期目標)【21】 関係法令等の遵守・徹底を図るとともに、研究活動における不正行為及び研究不正を防止するため、倫理教育を充実させるなど、適正な法人運営を推進する。	(中期目標)【22】 関係法令等の遵守・徹底を図るとともに、研究活動における不正行為等を防止するため、倫理教育等を充実させ、適正な研究教育環境を推進する。	研究活動における不正行為には、研究不正と研究費不正があり、いずれにも対応するように「不正行為及び研究不正」を「不正行為等」に変更し、「倫理教育」にコンプライアンス教育を含めるため「倫理教育等」に変更し、研究活動における目標であることを明確にするため「適正な法人運営」を「適正な研究教育環境」に変更した。